

第4回総務文教常任委員会会議録

1 開会日時 平成29年5月16日（火）午前10時0分

2 閉会日時 平成29年5月16日（火）午後0時56分

3 会議場所 議会委員会室

4 出席委員

1 番	永徳 省二君	7 番	大口 浩志君	11 番	松田 勲君
12 番	北川 勝義君	16 番	下山 哲司君	17 番	実盛 祥五君
18 番	金谷 文則君				

5 欠席委員

なし

6 説明のために出席した者

市 長	友實 武則君	副 市 長	内田 慶史君
教 育 長	内田 恵子君	総合政策部長	作間 正浩君
総合政策部参与兼 市民生活課長	徳光 哲也君	総 務 部 長	前田 正之君
財 務 部 長	直原 平君	教 育 次 長	藤井 和彦君
赤坂支所長兼 市民生活課長	黒田 靖之君	熊山支所長兼 市民生活部参与	入矢五和夫君
消防本部消防長	矢部 敬史君	秘書企画課長	杉原 泉君
まち・ひと・しごと 創 生 課 長	遠藤 健一君	総 務 課 長	原田 光治君
くらし安全課長	中川 裕敏君	財 政 課 長	藤原 義昭君
管 財 課 長	小坂 憲広君	税 務 課 長	末本 勝則君
収納対策課長	土井 常男君	監査事務局長	元宗 昭二君
会 計 管 理 者	栗原 雅之君	教育総務課長	安本 典生君
学校教育課長	松井 啓子君	社会教育課長兼 スポーツ振興課長	土井 道夫君
中央公民館長	高橋 浩一君	中央図書館長	三宅 康栄君
中央学校給食センター 所 長	久山 勝美君	熊 山 支 所 市民生活課長	稲生真由美君
消 防 本 部 消防総務課長	井元 官史君		

7 事務局職員出席者

議会事務局長	奥田 吉男君	主 事	松尾 康平君
--------	--------	-----	--------

8 協議事項 1) 事業の進捗状況について

2) その他

9 議事内容 別紙のとおり

午前10時0分 開会

○委員長（北川勝義君） 皆さん、おはようございます。

ただいまから第4回総務文教常任委員会を開会いたしたいと思います。

開会に先立ち、友實市長のほうから御挨拶いただきたいと思います。

○市長（友實武則君） はい、委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、友實市長。

○市長（友實武則君） 皆さん、おはようございます。本日は、第4回総務文教常任委員会開会をお願いいたしまして、お忙しいにもかかわらずこうしてお開きいただきましたこと、感謝申し上げます。ありがとうございます。

本日の委員会でございますけども、予定をしている議題は6月定例市議会上程予定の案件の説明、そして本年度の事業の進捗状況等についてお知らせをしながら御審議いただくことになります。何とぞ慎重な御審議をお願いいたしまして挨拶にかえさせていただきます。

そして、1つつけ加えてございますけども、私ごとでございますが、きょう午後からほかの案件を抱えておまして、午前中のみのお出席とさせていただきますけども、御理解をお願いいたしまして挨拶にかえさせていただきます。どうぞよろしくをお願いいたします。

○委員長（北川勝義君） ありがとうございます。

続きまして、本年度になりまして議会構成も変わったり、職員も人事異動がありましたので、この総務委員会の初の委員会ということになります。ここで、執行部及び委員の方に自己紹介をお願いしたいと思っております。

それではまず、執行部のほうからお願いいたします。

○市長（友實武則君） 濟いませぬ、先ほど御挨拶させていただきました市長の友實でございます。どうぞよろしくをお願いいたします。

○副市長（内田慶史君） 皆さん、おはようございます。副市長の内田でございます。本日はよろしくをお願いいたします。

○教育長（内田恵子君） おはようございます。教育長の内田です。よろしくをお願いいたします。

○会計管理者（栗原雅之君） 会計管理者の栗原です。よろしくをお願いいたします。

○消防本部消防長（矢部敬史君） おはようございます。消防長の矢部です。よろしく申し上げます。

○財務部長（直原 平君） 失礼いたします。財務部長の直原でございます。ことしもよろしくをお願いいたします。

○総合政策部長（作間正浩君） 失礼いたします。総合政策部長の作間と申します。よろしくをお願いいたします。

○総務部長（前田正之君） おはようございます。総務部長の前田と申します。どうぞよろし

くお願いいたします。

○教育次長（藤井和彦君） 失礼いたします。教育次長の藤井と申します。よろしくお願いいたします。

○赤坂支所長兼市民生活課長（黒田靖之君） おはようございます。赤坂支所長並びに市民生活課長を兼務になりました黒田と申します。よろしくお願いいたします。

○熊山支所長兼市民生活部参与（入矢五和夫君） おはようございます。熊山支所長兼市民生活部参与の入矢と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。

○総合政策部参与兼市民生活課長（徳光哲也君） おはようございます。吉井支所長並びに総合政策部参与、吉井支所の市民生活課長並びに仁堀出張所の所長を兼務いたしております徳光と申します。よろしくお願いいたします。

○建設事業部参与兼財務部参与兼保健福祉部参与（溝口 誠君） 失礼いたします。おはようございます。建設事業部本務、財務部及び保健福祉部参与の職をいただいております溝口と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。

○消防本部消防総務課長（井元官史君） おはようございます。消防総務課長の井元と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。

○収納対策課長（土井常男君） おはようございます。収納対策課長の土井でございます。よろしくお願ひいたします。

○税務課長（末本勝則君） 失礼いたします。税務課長、末本でございます。どうぞよろしくお願ひいたします。

○管財課長（小坂憲広君） おはようございます。管財課長の小坂でございます。よろしくお願ひいたします。

○財政課長（藤原義昭君） 失礼します。財政課長の藤原です。よろしくお願ひいたします。

○まち・ひと・しごと創生課長（遠藤健一君） おはようございます。総合政策部まち・ひと・しごと創生課長の遠藤でございます。よろしくお願ひいたします。

○秘書企画課長（杉原 泉君） おはようございます。秘書企画課長の杉原でございます。よろしくお願ひいたします。

○総務課長（原田光治君） おはようございます。総務課長の原田と申します。

○くらし安全課長（中川裕敏君） おはようございます。くらし安全課長の中川です。よろしくお願ひいたします。

○教育総務課長（安本典生君） 失礼します。教育総務課長の安本です。どうぞよろしくお願ひいたします。

○学校教育課長（松井啓子君） おはようございます。学校教育課長の松井です。よろしくお願ひいたします。

○社会教育課長兼スポーツ振興課長（土井道夫君） 失礼します。社会教育課長とスポーツ振

興課長を兼務しております土井といいます。よろしくお願ひいたします。

○監査事務局長（元宗昭二君） おはようございます。監査事務局長の元宗と申します。よろしくお願ひいたします。

○中央学校給食センター所長（久山勝美君） 失礼します。学校給食センター所長の久山と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。

○熊山支所市民生活課長（稲生真由美君） 失礼します。熊山支所市民生活課長の稲生です。よろしくお願ひします。

○中央公民館長（高橋浩一君） おはようございます。中央公民館長の高橋でございます。よろしくお願ひいたします。

○中央図書館長（三宅康栄君） 失礼いたします。中央図書館長の三宅と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。

○議会事務局長（奥田吉男君） 議会事務局の奥田でございます。よろしくお願ひします。

○議会事務局主事（松尾康平君） 議会事務局の松尾と申します。よろしくお願ひします。

○委員長（北川勝義君） 執行部のほうは終わりました。

それでは、委員のほうが言います。

総務文教委員長、北川です。よろしくお願ひします。

○副委員長（永徳省二君） 永徳省二と申します。よろしくお願ひします。新人でございます。

皆さんにお願ひがございます。20年ほど前に突発性難聴になっておりますので、耳が遠いので、ぜひ発言のほうは大きな声ではっきりとよろしくお願ひします。

○委員長（北川勝義君） そりゃあおめえ、関係ねえ、マイクが通つとる。

○委員（実盛祥五君） おはようございます。実盛です。よろしく。

○委員（大口浩志君） おはようございます。大口と申します。よろしくお願ひします。

○委員（下山哲司君） 赤磐市の一番北の草生から来ております下山です。よろしくお願ひします。

○委員（松田 勲君） おはようございます。松田です。よろしくお願ひいたします。

○委員長（北川勝義君） 議長、お願ひします。

○議長（金谷文則君） 議長として参加させていただいております金谷でございます。どうぞよろしくお願ひいたします。

○総務部長（前田正之君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、部長。

○総務部長（前田正之君） 済いません。ここで、溝口参与につきましては、きょうはここで退席をお願いしたいと思います。どうぞよろしくお願ひいたします。

○委員長（北川勝義君） その前に、自己紹介すんのはええんじゃけど、溝口参与のほうで聞

かにゃあいけんけど、財務部の参与と保健福祉部の参与というたら、何か全然、教育委員会と建設課長と兼ねとるようなことになるか、ようわからんのやけどな。別に、しとんのにどうこうけちをつけるんじゃねえんじゃけど、おる言ようるときの方がええわなと思うてな。まあええ、帰ってくれりゃええけえ、またそれは聞きます。今ちよつと思うて。

○委員（下山哲司君） もう一個下にあるのは……。

○議会事務局長（奥田吉男君） はい。済いません。

○委員（下山哲司君） 消えとる。

○委員長（北川勝義君） それがねえんじゃ、わしは。

○議会事務局長（奥田吉男君） 済いません。建設事業部参与も。

○委員長（北川勝義君） 3つもいくん。

○議会事務局長（奥田吉男君） はい。

○委員長（北川勝義君） でえれえ、そりゃあ、オールマイティーじゃ。

○総務部長（前田正之君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、前田部長。

○総務部長（前田正之君） 溝口参与につきましては、自席につきましては建設事業部のほうに置かせていただいております。主に建設事業部の工事、建設、また検査、そういったところを主の仕事とさせていただきます。全体的に赤磐市の中でいろんな建設工事、建築、そういったもののほうを特化したしまして、3つの部のほうのそういった仕事を受け持っておりますので、全体的な3つにそういった案件が出ましたときには出席をさせていただきますして説明のほうをさせていただきますと思っております。きょうのところは、この御挨拶をさせていただきますところで退席のほうをお願いいたします。よろしく申し上げます。

○委員長（北川勝義君） いやいや、そんな話をしょんじゃのうて、別にえんじゃけど、決め方じゃから、市長や執行部が決められよんをどうこう云々言うんじゃねえんじゃけど、例えば徳光参与にしても総合政策部へおって支所へおるというのもどうも合点いかん、ようわかりにきいというのがあったり、いろいろなことが、そのうち落ちついたら異動もせられるんじゃろうけど、今暫定的なことがあるんかもしれん。

ただ、溝口参与については、僕はこの委員会へ上がってもらわんでも、どうしても財務部が必要なかったら上がってもらええんじゃけど、上がってもらわんでもええんじゃねえかと思うんですよ。来にゃあおえなんたら初めから来るようにしてもろうて、仕事は建設のほうへ席はあろうと、もう出るんじゃったらここへ出てもらうと。徳光参与じゃったら支所長じゃわな。支所じゃけど、ここへ出るということで出るんやから、出るんなら出る、出んのんじゃったら出んと、それで会議があるときに、必要があったらこれは別に溝口参与の話じゃのうて、産建部長を呼べえという場合もありますわな。結構ある、それはあるんで、そこのところは出るんなら出る、それはもう議会の、局長、よう……。

○議会事務局長（奥田吉男君） 打ち合わせします。

○委員長（北川勝義君） 執行部のほうと相談してください。いっつもやるたびに3つの委員会に出よるといいうのもスケジュール的にいろいろあるんでねえかと思うて。あるとき……。

○委員（下山哲司君） 出したときじゃろ。

○委員長（北川勝義君） そう。そうして、今度はそうしてもろうたほうが、相談して。議長、そういうやり方させてもらやあよろしかろう。

○議長（金谷文則君） そのほうがいいと思います。

○委員長（北川勝義君） 全部こっち出るより産建のほうへ出てもらうほうが原則はええと思うんじゃけど。

○議長（金谷文則君） 必要ならね。

○委員長（北川勝義君） そういうことでよろしいな。

皆さん、そういうことでよろしいですか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（北川勝義君） それでは、これで終わりたいと思います。

それでは、協議事項に入ります。

はい、御苦労さんでした。

〔建設事業部参与兼財務部参与兼保健福祉部参与 溝口 誠君
退場〕

○委員長（北川勝義君） 1番目の事業の進捗状況について執行部から説明願いたいと思います。

○秘書企画課長（杉原 泉君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） ちょっと待って。

○秘書企画課長（杉原 泉君） 済いません。

○委員長（北川勝義君） 事業の進捗に入りたいと思います。

1番目の事業進捗について執行部から説明願いたいと思います。

○秘書企画課長（杉原 泉君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、杉原課長。

○秘書企画課長（杉原 泉君） 秘書企画課から、まず平成29年度一般会計補正予算（第2号）の主要事業案について説明させていただきます。

では、1ページをごらんください。

まず、歳入からでございます。

使用料、総務使用料、こちらは後ほど歳出のほうで説明をさせていただきますが、市民バス使用料として16万8,000円計上させていただいております。

次に、総務費国庫補助金、地方創生推進交付金でございます。こちらは、シティプロモーション

ョン事業としてフォトコンテストに係る交付金が交付されることになったため、150万円計上させていただきます。こちらもまた後ほど歳出のほうで説明をさせていただきます。

次に、市債、過疎対策事業債、こちらも後ほど歳出で説明をさせていただきますが、旧備作高校跡地活用事業に係る過疎債、充当率100%ということで620万円計上させていただきます。

次に、歳出でございます。

総務管理費、企画費、市民バス運行事業、市民バス運行委託料として226万8,000円を計上させていただきます。こちらにつきましては、平成28年度に岡山東農業協同組合より10人乗りの車両及び運行費を寄附していただき、この車両を活用しまして、本年2月、3月の2カ月間、診療所や医院への通院に不便を感じている赤坂、吉井地域の通院支援バスとして試験的に運行いたしました。この結果につきましては後ほど説明をさせていただきますが、このたび赤坂地域の森医院の閉院によりまして、今まで通院されていた方を初め地域の方々の不安の声をお聞きしました。また、医療については代替手段がなく、移動の手段を確保する必要がありますことから、市民バスの路線や時刻を見直し、市民バスを医療機関へ接続できるよう再編を早急に行うべきと考えまして、今回運行経費を計上するものでございます。

次に、シティプロモーション事業でございます。こちらにつきましては、赤磐市の自然豊かな美しい風景、人物、またこれまで埋もれていた地域資源などに目を向けてもらい、赤磐の魅力を発掘、発信するため、フォトコンテストを開催するに当たり、開催に係る関係経費として300万円を計上するものでございます。

次に、旧備作高校跡地活用事業でございます。旧備作高校跡地に所在します武道場及び温室についてでございますが、こちら両施設は老朽化しておりまして利用不可能な状態であり、また施設活用上大変危険であるため、解体をするものです。それに要する経費として626万1,000円を計上させていただきます。

次に、平成28年度の市民バス等の運行実績について御説明いたします。

2ページ目をごらんください。

赤磐市通院支援バス試験運行の実績についてということで、平成29年2月から3月にかけて赤坂地域、吉井地域で実施しました医療機関への通院支援を目的としました赤磐市通院支援バスの試験運行の実績でございます。

このバスは、乗車日の前日に予約をするデマンド型で運行いたしました。運行期間は、平成29年2月1日から3月31日まででございます。2月の利用実績でございますが、予約があれば運行を予定していた日数16日に対しまして実運行日数4日、赤坂地域は4名、吉井地域は8名、計12名の利用がございました。3月の利用実績について、予約があれば運行していた日数18日に対しまして実運行日数4日、赤坂地域については御利用がありませんでした。吉井地域が15名で、計15名の利用がございました。試験運行期間中の総延べ利用者数27人、行きが

15人、帰りが15人で、行き利用者15人のうち医療機関利用が11人、その他の利用が4人となっております。運行予定日数34日に対して実運行日数8日でございます。赤坂地域の利用者数は4人、吉井地域の利用者数が23人という結果でございます。

なお、今回試験運行した経路について、2ページの右側のほうに路線図のほうを載せております。赤坂地域については、笹岡線、北佐古田線、いずれも通常、資料の図の数字を緑で囲んでいるルートのほうを定時定路線で現在運行しておりますが、今回試験運行で新たに曜日を追加しまして、前日までに予約があれば数字を黄色で囲んでいるルートを追加した経路でデマンド型で運行をいたしました。笹岡線では、現在経路に入っておりません小原、多賀地区をルートに入れ、町苅田下の道満医院まで接続していたルートを西窪田まで延長しまして、坂本歯科、越宗医院にも通院できるようにいたしました。北佐古田線についても、同じく西窪田まで延長して、坂本歯科、越宗医院にも通院できるようにしております。吉井地域につきましては、現在デマンド型の市民バスとして運行しております。対象地区の方が利用者登録をすれば誰でも利用が可能となっております。利用者の御自宅の近くから吉井地域の中心部、吉井支所周辺、仁堀出張所周辺を結んで運行しております。今回の試験運行では運行日を1日追加しまして、それぞれ佐伯北診療所へ接続できるようにいたしました。

それでは、3ページをごらんいただきたいと思えます。

こちら、赤磐市の広域路線バスと赤磐市民バス全体の利用者数の推移についてグラフ化したものでございます。左側、赤磐市広域路線バスでございますが、水色が赤磐・美作線、ピンク色が赤磐・和気線でございます。右側が赤磐市民バス全体の利用者数の推移ということで、青が吉井、緑が熊山、赤が赤坂、山陽が黄色で表示しております。後ほどごらんください。

続いて、4ページをごらんください。

こちらは、赤磐市民バスについてそれぞれの地域のそれぞれの路線の利用者数の推移をグラフで表示しております。左から黄色が平成23年度、薄い水色が24年度、一番右の紺色で表示されておりますのが平成28年度の利用者数でございます。

なお、このたび赤磐市の市民バスの時刻表の最新版を作成いたしましたので、今回資料と一緒に配付させていただきましたので、またごらんいただけたらと思えます。

市民バス等の運行実績については以上でございます。

次に、5ページをごらんください。

あかいわ映画祭りについてでございます。平成29年7月8日土曜日に赤磐市桜が丘いきいき交流センターであかいわ映画祭を実施することになりましたので、御報告をさせていただきます。内容としましては、「種まく旅人～夢のつぎ木～」を含めまして3作品を上映し、映画監督であかいわ広報大使の佐々部清監督、また今回上映する3作品に出演されている俳優で同じくあかいわ広報大使の津田寛治さんに御出席いただきまして、映画の合間のトークショーや映画上映後の交流会にも参加いただく予定にしております。チラシ等ができましたらお配りを

させていただきますので、ぜひ御参加ください。

なお、6ページには参考までに実行委員会の名簿をつけておりますので、ごらんいただけたらと思います。

以上です。

○まち・ひと・しごと創生課長（遠藤健一君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 遠藤課長。

○まち・ひと・しごと創生課長（遠藤健一君） 引き続きまして、まち・ひと・しごと創生課関係を御説明をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

資料は、続きまして7ページでございます。

一般会計補正予算の主要事業ということで、委託料のほうを300万円計上を予定させていただいております。内容につきましては、後ほど説明をさせていただきます、現在進めております山陽団地等の住宅団地、この中心市街地の活性化に向けての検討ということで、今年度基本構想をつくらせていただくということで当初予算では150万円を計上させていただいておりましたが、より具体的な経営解決策などを検討していくためにはもう少し技術的なコンサルティングの支援が必要であるということで今回上げさせていただいております。

続きまして、8ページ以降をごらんくださいませ。

山陽団地等の中心市街地の活性化対策につきましては、平成27年11月、2番目の経緯のところへございます、市長のほうは各1丁目から7丁目の町内会にお邪魔をいたしまして、懇談会ということでさまざまな御意見をいただき、意見交換を行っておるところでございます。その後、町内会の皆さんと住民、行政、民間でできることなどの役割分担ということで、このあたりまでをまちづくりということでこれまでは建設事業部のほうで実施をしておったということになっております。その中で、いろいろな課題が市役所の中全体に関係が及ぶというようなことがございまして、総合政策部のほうもこの中に入りまして、平成28年9月に若手職員を庁内で集めまして、ワーキンググループ、こちらのほうでいろいろな山陽団地等の課題の抽出でありますとか解決策の検討を行いました。

年が明けまして、ことしの2月になりましたが、市長を本部長といたしまして、部長級が本部長となる山陽団地等活性化対策本部というものを設置をいたしまして、その後、識見者の皆さんから御意見をいただくべく有識者会議を立ち上げさせていただきました。ちょうど選挙期間ということもございまして、議員さんに1枠お願いをしたいということがございましたが、そのことがまだ決まらない中で、去る4月20日に第1回の、これは顔合わせというふうに御認識いただければ結構かと存じますが、有識者会議というのを開催をさせていただきました。非礼の段、おわびを改めてさせていただきたいと思っております。せんだって議会のほうから治徳議員さんのほうに入っていただけるということで御選出をいただいたということで、第1回の御様子も御説明をさせていただき、9ページの下段にございますように、来る5月29日には第2回

の会議を予定をさせていただいております、そちらにはまた御参加をいただくということで今予定をさせていただいております。

9ページ中段には、活性化のための体制ということでこの図に示した格好で進めておるところでございます。

10ページ以降は、先ほど申し上げました市長が平成27年11月から12月にかけて各町内会へお邪魔した懇談会の意見の要旨を建設事業部のほうでまとめておりますものを参考につけさせていただいております。後ほどごらんください。

14ページには、このたび山陽団地等活性化対策有識者会議ということでおそろいいただきました15名の方の名簿をつけさせていただいております。各分野のほうから各界1名の方に代表で入っていただくというイメージで構成をさせていただいております、下段には今回オールドニュータウン問題に対してアドバイスをいただくということで森ビル都市企画さん、JFEエンジニアリングさんにアドバイザーとして入っていただいております。

15ページにはせんだっての、先ほど申し上げました第1回の顔合わせのときに御意見をいただいたものを各分野ごとに、例えば空き家の問題でありますとか県営住宅の問題、公共交通、人口減少問題、16ページにかけまして、教育、子育て、イメージアップなどのいろいろな観点から御意見を、初回でございましたのでざっくりといただいたところでございます。今後、第2回目以降はそれぞれの分野をもう少し絞り込みをしまして、具体的な打開策であるとか解決策に向けて御意見が頂戴できればというふうに考えてございます。

本日は昨年若手職員がつくり上げましたワーキンググループの報告書を別冊資料としてつけさせていただいておりますので、また御参考にごらんくださいませ。

簡単ですが、以上でございます。

○委員長（北川勝義君） ありがとうございます。

総合政策部のほうから説明が終わりました。

委員の皆さん、何か御意見がありましたら、質問がありましたらお願いしたいと思います。

○委員（下山哲司君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 下山委員。

○委員（下山哲司君） 過疎対策事業の分で620万円出とる、備作高校の進捗はどうなっとんですか、今現在。

○秘書企画課長（杉原 泉君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、杉原課長。

○秘書企画課長（杉原 泉君） 旧備作高校につきましては、昨年度から修繕工事設計業務を委託しまして、現地調査を行うなどしまして、本年度の4月に設計のほうは完了しております。既に入札準備などの手続に入っております、工事の完成は8月の末、それからその他関連する美装ですとか植栽管理などを行いまして、9月末ごろには事業者さんに引き渡しが可能

ではないかと思込んでおります。

以上です。

○委員（下山哲司君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 下山委員。

○委員（下山哲司君） 前に説明聞いたよりおくれとんかな、これは。

○委員長（北川勝義君） おくれとる、おくれとる。

○委員（下山哲司君） どのくらいおくれて、どういう事情でおくれたんか説明できます。

○秘書企画課長（杉原 泉君） はい、委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、課長。

○秘書企画課長（杉原 泉君） 今回修繕工事設計業務のほうを委託をしまして、現場のほうを調査をしていただいたんですけども、現地調査のほうが時間がかかりまして、本来でしたら28年度中にという予定で委員会のほうでも御説明をさせていただいていたんですが、実際には設計業務のほうがおくれまして、4月になってからそちらのほうが終了しましたので、これから入札を済ませまして、工事というふうな流れになりました。

○委員長（北川勝義君） 前のじゃろ。繰り越しじゃろ。繰り越しの話をしよんじゃろ、今。繰り越しの話をしよんか。

○秘書企画課長（杉原 泉君） いえ。

○委員長（北川勝義君） いや、繰り越しの話じゃろ、この600万円とは関係ねえんじゃろ。

○委員（下山哲司君） じゃからおくれた理由。

○秘書企画課長（杉原 泉君） 今回の補正で上げているのは、施設……。

○委員長（北川勝義君） これからするこっちゃけえ、繰り越しのを今言よんじゃろ。

○秘書企画課長（杉原 泉君） はい、工事自体はそうです。

○委員長（北川勝義君） 繰り越しの話をしよんじゃろ、設計と繰り越しの話をしよんじゃろ。どれぐらいになるかな。

○委員（下山哲司君） 委員長、よろしい。

○委員長（北川勝義君） はい、下山委員。

○委員（下山哲司君） それで、あれじゃったら620万円の内容は今言えるんかな。言えんのだったらまた。

○委員長（北川勝義君） 武道館と……。

○委員（下山哲司君） あらましは聞いてもいい、あらましは。

○秘書企画課長（杉原 泉君） はい、委員長。

○委員長（北川勝義君） 課長。

○秘書企画課長（杉原 泉君） こちらにつきましては、備作高校の武道場と温室の解体に係る工事費用、それから解体した際にくず等が出ますので、そのくずの仕分け等に係る調査費用

でこちらの金額を上げさせていただいております。

○委員長（北川勝義君） よろしいか。

○委員（下山哲司君） よろしい。

○委員長（北川勝義君） 下山委員。

○委員（下山哲司君） 武道館は何か修理して使うというて言ようらへなんだかな。

○委員長（北川勝義君） 前そねえな感じ聞いたような気がしたんじゃ。

○委員（下山哲司君） 前そういう説明を聞いたような記憶なんじゃけど。

○秘書企画課長（杉原 泉君） はい、委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、杉原課長。

○秘書企画課長（杉原 泉君） 武道場につきましては、かなり老朽化が激しくて、壁等もかなりひび割れ、それから窓枠もずれておりまして、例えば地震等が起きましたら倒壊しかねない、非常に危険な状態であるということがわかりました。

○委員長（北川勝義君） いやいや、それはもうわかった。それは調査だけじゃが、そのときに、前のときには武道館は倉庫とかというような感じで使うという話になってなかったかというて今下山委員が言われよんで、そうなとったけど実は調査したらこうなったんじゃ言うてもらやええんじゃけど、なとったろう言うん。前、なってなかった、当初は。

○委員（下山哲司君） 私の記憶ではそう。

○委員長（北川勝義君） 徳光君、そうだったろう。違うたかな。

徳光参与。

○総合政策部参与兼市民生活課長（徳光哲也君） 御指摘のとおり、当初は鉄骨づくりでしたので使うことが可能というふうに判断をいたしておりましたが、詳細に調査した結果、基礎から傾いているということが判明いたしまして、今回除却をするということにさせていただきます。

○委員長（北川勝義君） いや、それやったらええな、言ようることな。

よろしいか。

○委員（下山哲司君） よろしい。

○委員長（北川勝義君） 関連で、下山さんが言われたんで、委員の皆さんも新しい委員さんもおられたり、備作高校を全然見られてねえ議員さんもおられると思うんじゃ。また、6月議会というたら無理かもしれんのじゃけど、間的时候に、副委員長とも御相談、執行部ともさせてもらうんじゃけど、一遍見させてもらおうかなと思うとんで、そういうことも、見に来てくれたら邪魔になると言うたら行かんのんじゃけど、もし見れるんじやったら全体見させてもらうたら、それはもう百聞は一見にしかずじゃから、目で見たらわかったなという。それで、大変言い方悪いんが、7月ぐれえやったら行けるかもしれんけど、全員の委員が、全員の職員が行かんでも、関係だけでもよろしいし、時間的なことや日にちのことを言うんですよというて

言うたら、ぜひ見たら勉強になると思うんで、していただきてえ。愛着もあるんでと思いますんで、よろしくをお願いします。

それからもう一点、もう全面繰り越しになったことはええんじゃけど、大体繰り越しというのは、おめえ、早うせにゃあおえんわ。おめえ、入ってもねえ業者で入れさせ入れさせ言うて、特別な業者が入ってきて。あれ、ちょうど、直原部長、地震のときじゃったな。

○財務部長（直原 平君） はい。

○委員長（北川勝義君） 地震の日じゃったな。

○財務部長（直原 平君） そうです。

○委員長（北川勝義君） 「種まく旅人」の券売ったときじゃ、僕は覚えとんじゃけど。ほんなあ、急遽ああじゃこうじゃ言うて、ここを入れにゃあ、前設計しとんじゃ言うて、結果設計したところが長う時間かかって引っ張って、高え値段で、そんなばかな話があるもんか。本当はこれは設計のときに、僕はもう、市長、よう聞いてえてよ、教育長も、一般的な話をしょんじゃから、副市长も。こちらの発注者のミスによってとか自然環境とかによって設計とか工事が延びるのは、これは当たり前の話。そちらのほうで工事が延びた、工事が延びるのはいたし方がねえかもしれん。設計が延びるといふこと自体がもうナンセンスなんじゃ。設計が3・31で完了するということもナンセンスじゃから、わかります、言よること。こんなことは事業者じゃったらわかるはずなんじゃ。議事録じゃからあえて言わせてもらよう、こういう言い方しようん。大見え切って指名入れてくださいというて入ってやっとする、落札した業者がそんなことじゃったら管理不行き届きじゃというて。僕は、前のときの、繰り越しになるというときに前の部長には言うたん、そう言うて。悪いというて言うたん、その業者自体が。赤磐市のほうがとか、関係者の地域が道をつけてくださいとか、できたときに、いや違う、ここをこうしてくれえとか、いろいろ条件があっておくれたというんじゃたらえんじゃけど、そんなんじのうておくれるのは僕はおかしいかなと今思うて。またそれで、今度は次のときもその業者を入れて、前しとりましたけえというて入れて、またそんなばかなことをやったらペナルティーをかけにゃあいけんというて言よん。誰かが責任とらにゃあ。今これを言よん。そういうコネもできて、言うたら1月とかびちっとできて、設計ができて、工事は何らかの形で延びたとかということになつとんじゃたらまたえん。設計自体が延びて、そういう業者を入れるようになつとらんというて言ようん。絶えず悪い業者は悪いと、市が悪かったんか、要らんことを言やあ、前のときに保育所のこといろいろあったとき、聞いたら市も悪かったし設計も悪かった、話をして、再度調査をして、自分でお金を出してやったということをやったのを覚えとんで、そういうことをやっぱりびちっとしてもらいてえということであえて言わせてもらうたんです。

それで、前から私はお願いしとんですけど、これは内容には入りませんが、備作高校の武道館も、今下山さんが言われてようそれでわかったんじゃけど、温室もガラスやこうでいろい

ろあるかもしれん。ただ、何ぼかかるか知らんけど、看板立ててください言うたんじゃ、ずっと前から。もうやめたんじゃというて、市長選挙の中ごろにはもうやめたんじゃというてうわさが立っとった。友實がようやらなんだ、やめたんじゃというて。じゃから、あなたの票が少なかったんじゃ、吉井やその周りの。例えばじゃ、そういううわさも立ったということ。じゃから、あそこへ看板立ててくれて、予告看板じゃねえけど、いつから、絵じゃねえけど描いて、こうやりますよというたら、仮に今山陽団地でこれをやりますよというて、絵をつけて調査をしてやるんです、つくったというんじゃったら前向きなが。何もしてなかったら、前へ行かないということと言いたかったんで、ぜひそのところを、今度は看板を、この中へ事業費があるかねえかわからん、このくらいあると思うからどねえかして、早う立ててくれたら皆さんがこんなもんできたというて喜んで注目してくれるん。活力があるということと言いたかったわけ。あんたら、できたらえかろうがじゃのうて、料理でも、ええ料理つくるとかつくらんとかよりは、味はええけど、器のええもんもあったりサービスがえかったりして味が向上すんじゃから。嫌じゃったら家で、自分とこでコーヒー飲みようりゃええが、喫茶店行かんでも、例えばの話じゃから。それを、市長、そういうことをびちっとしてください、その2点。どんなですか、市長、やりません。

○市長（友實武則君） はい、委員長。

○委員長（北川勝義君） 友實市長。

○市長（友實武則君） 1点御提言いただいたと思っております。特に市民への周知、それについては重要なことと考えますので、どういったことができるか、これから検討させていただこうと思います。よろしく願いいたします。

○委員長（北川勝義君） 他にありませんか。

松田委員。

○委員（松田 勲君） 私のほうから市民バスの関係で、例えば2ページ目、数値が2月1日から2カ月間ということで出されているんですけど、思ったより少ないというのは正直な気持ちなんですけど、これは今後どういうふうにしていきたいのか、またこれを利用された方の意見とかアンケートとかとられとんだったら教えていただきたいなと思うんですけど、いかがでしょうか。

○委員長（北川勝義君） はい、杉原課長。

○秘書企画課長（杉原 泉君） 御意見ありがとうございます。

市民バス、今回の通院支援バスにつきましては、広報、それからチラシ、また赤坂、吉井地域につきましては放送等でも流しまして御案内をさせていただいたんですが、周知のほうは十分行き届いてなかったのか、特に赤坂地域につきましては、通常市民バスを定時定路線で運行しておりまして、今回のデマンドの形で運行するということになじめなかったのかなという気がしております。

また、利用された方の感想につきましてですが、今回デマンド型で運行しております、吉井のほうはもうデマンド登録をされている方の御利用でしたので、直接感想等をお聞きすることができました。その感想なんですけれども、デマンドバスをふだんから利用するので予約するのにはなれていたんですけども、前の日の予約をするというのがおっくうになることがありましたということですか、あとは佐伯の診療所まで接続してもらえて大変ありがたかったというお声もいただいております。通常のデマンドバスも、今回の通院支援バスと同様な形で診療所のほうに接続していただかないと非常に困りますというお声をいただいております。また、診療所の待ち時間が長いというのが、今度帰りのバスに乗るのに接続のバスがなかなかなくて待ち時間が長いというお声もいただいております。

あと、今後なんですけれども、現在市内の公共交通機関を利用する方というのは、移動手段がバスしかなくて、病院と買い物に使う方が大半であります。このことから、利用者の医療機関への受診を主眼に置いた形で公共交通の交通網の再編を行うべきと考えておりますので、そこを念頭に置いて今後再編を図りたいと考えております。

以上です。

○委員（松田 勲君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、松田委員。

○委員（松田 勲君） ありがとうございます。

正直、高齢者の方とかが多いんで、わかりやすいように、せっかくいいことをやろうとしてるんで、わかりやすい、もっと工夫していただきたいのと、デマンドタクシーとの絡みも含めてもうちょっとわかりやすくしていただきたいなど。そういった中で、またこういった実績を出していただきたいと思っております、これは要望になるんですが。

それともう一個、その後ろの3ページ、4ページのあたりなんですけど、市民バスで気になるのが、全体が減ってる中で、吉井とか赤坂あたりはふえてるんですけど、大体平行してるかふえてるかなんですけど、熊山がかなり減ってきているんですけど、利用者は多いんですけど。これは何か理由があるんでしょうか、わかれば教えてください。

○委員長（北川勝義君） 9,800人になるところな。

○秘書企画課長（杉原 泉君） はい、委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、課長。

○秘書企画課長（杉原 泉君） 熊山地域が減少傾向にある具体的な原因というのは、申しわけありません、まだ今お答えできないんですけども、済いません。

○委員（松田 勲君） はい、委員長。

○委員長（北川勝義君） 松田委員。

○委員（松田 勲君） 調べていただきたいんですが、市民バスの利用者の中で熊山地域がかなり占めているんです。

○委員長（北川勝義君） 突発しとるな。

○委員（松田 勲君） 当初からいうたらかなり、2,000人以上減っているような状況なんで、熊山でも地域によると思うんですけど、路線、結構変えたと思うんですけど、途中で。

○委員長（北川勝義君） 市民バスが普及しとんじゃ、利用する。

○委員（松田 勲君） だから、その辺のことを含めて、何でこんなに減ってきているのか、また利用者の声ももう少しピックアップしながら考えていただきたいと思うんですけど、要望です。お願いします。

○秘書企画課長（杉原 泉君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、課長。

○秘書企画課長（杉原 泉君） ありがとうございます。

今年度は、地域の住民の方の声を聞いたり、またアンケート等を実施したりして、地域の方の声を聞きながら再編のほうを凶りたいと考えておりますので、熊山地域についても同様に住民の声を聞きながら再編したいと思えます。また、こちらの減少の傾向については、また調べて、改めて御報告をさせていただきたいと思えます。

○委員長（北川勝義君） 松田委員。

○委員（松田 勲君） もう一個ついでに、熊山のほうだと診療所の問題もあると思うんですけど、診療所に向かっている方が多いと思うんですけど、診療所の利用者と、あと熊山駅のほうにふやしたと思うんですけど、その辺の絡みもわかればまた。

○委員長（北川勝義君） そうじゃな。それは大事なこっちゃな。

○秘書企画課長（杉原 泉君） はい、委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、課長。

○秘書企画課長（杉原 泉君） では、調べてまた御報告をさせていただきます。ありがとうございました。

○委員長（北川勝義君） 課長、全体のバスのことじゃけど、JAのをやってもらうのも赤坂の森医院が閉院になったりいろいろなことがあるんでこれは大事なことで、赤坂はふえるんじやねえかと思うて。赤坂の区長会じゃとか何人か知った人には、もう議会で政務調査や何やかんやこらっしもねえことばあするなど、そねえなことより早うもう赤坂へ診療所をすとかバスの足の確保をせえということを、そういう文句を言われる人もおられるんですが、それをやってもらわにゃあ困るというて、ぜひというてという話が出る。それで、今そういうことも一つと、それから熊山は市民バスが物すごう普及できとるわけ。ええ配置になつとる、地域的に合わせて、これはバスに乗って出よる人が言われるのがタイミングがええんで。吉井やこう、もうむちゃくちゃタイミングが悪いわけ。山の中へおりてきて、もう率が悪いんで、今あつて、ちょうど固まって、路線、行きやすいんが、行きにきいというんはそういうこれがあるんで。

それで、今松田委員が、同僚委員が言われたんじゃないけど、研究してくれえ言うたんで、熊山が減ったのは僕はそういう利用がええ場所になっとんじゃないかねえかというのが一つあるんと、それと診療所を核にしてやっていきょうの中でも自分で動けたり、ほかの市民バスのほうがあるから減ってきとんが、市民バスの利用率は、ただ乗って駅をふやしたじゃとか診療所をふやした、そここのところはどうなっとるといのは対応を出してもらいてえ。それがようになっていくことであり、ほかのところのマイナスとかプラスになるところが出てくると思うんじゃ。

できたら、僕が言われとんのは、吉井の話をしたら、赤坂もじゃけえ、特に吉井のほうは免許証を払うた方がおられるんです。払わにゃあおえんというて返納したん。それで人を頼んで、車も廃車する言いよった、廃車せずに車を置いとんですよ。自分乗りようた軽四を、乗用車1台置いて、ゲートボールやら診療所へ行くときは人を頼んで、その人に乗せて行ってもらうて、また車は帰って、また時間が来たら迎えへ行ってもらうてするということをやりにんですよ。そういうなんがあるんで、なかなか、名前出せえというてもすぐ名前出るんじゃけど、もう払いとうなかったんじゃと、払いとうねかったんじゃけど、もう息子や皆やかましいから払うたんじゃと。返納したら困って、たまたま知ってそういう便利に使うてくれる人がおるからできるんで。

これも何が言いたかったかというのは、僕がこれから言いてえのは、デマンドであろうとJ Aであろうと何であろうと、利用率が下がるのは回数が少なえから。回数をふやしてくれたら必ずようなる。これ、大変言い方は悪いけど、山陽団地へおる方やネオポリスへおる方、熊山で真ん中へおる方、赤坂の道沿いへおる方はわからんの。吉井の方は、ほんまに困るというたらおかしいけど、弱りょんです。これは切実なんで、皆免許証を払え言うたら、免許証やこう払えるもんか言うて、今名前あえて言わん、遺族の代表で世話をしてくれよる、もうおじさん、事故をようするから免許証払わなおえまあ、もうあの人払うたんじゃ言うたら、免許証やこう払うというたら大変なことにならあというて、もう払えれんというて、何ぼしてもそれが今の現実なんですよ。じゃから、回数をふやしゃあ、回数をふやしたけえオーケーになるんじゃねえんじゃけど、何らかのことを考えりゃ、こっちはもうええ例が何ぼでも走りょうりますが、今そう思うた。そういうことも、松田委員が言われた話で検討してやってください、調査して。これ、今回だけで終わるんじゃねえと思うんで、ぜひ足というたら確保せなんだら大事なこっちゃと思うんで。

.....
.....
.....
.....
.....
.....

.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....

- 議長（金谷文則君） . . .
- 委員長（北川勝義君） . . .
- 議長（金谷文則君）
- 委員長（北川勝義君）
- 議長（金谷文則君）
- 委員長（北川勝義君）
-
-
-
-
-
-
-

- 委員（下山哲司君）
- 委員長（北川勝義君）
-
-

- 委員（下山哲司君）
- 委員長（北川勝義君）
- 委員（下山哲司君）
-

- 委員長（北川勝義君）
- 委員（下山哲司君）
- 委員長（北川勝義君）
- 委員（下山哲司君）

.....
.....

○委員長（北川勝義君）

○委員（下山哲司君）

○委員（松田 勲君）

○委員長（北川勝義君）

○委員（下山哲司君）

.....

○委員長（北川勝義君）

.....

○委員（下山哲司君）

.....

○委員長（北川勝義君） 暫時休憩します。

午前10時48分 休憩

午前10時52分 再開

○委員長（北川勝義君） それでは、再開します。

他にありませんか。よろしいです。

○副委員長（永徳省二君） はい。

○委員長（北川勝義君） はい、永徳委員。

○副委員長（永徳省二君） 2ページの通院支援バス試験運行の件なんですけれども、要はこれ、実際に2月1日から3月31日までちょうど2カ月、総費用は幾らかかってんのかと。総費用に対して27人の人たちの費用対効果というか費用対利便性、費用対市民の満足度、どうなってるのかっていうのを知りたいんですが。

○秘書企画課長（杉原 泉君） はい、委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、課長。

○秘書企画課長（杉原 泉君） 今回の試験運行につきましては、車両及び運行経費はJAさんのほうから寄附という形でいただいて運行をしております。費用対効果としましては……。

○委員長（北川勝義君） 8日間じゃがな。2カ月じゃのうて8日じゃろ。

○秘書企画課長（杉原 泉君） 今回実運行が8日ということで、利用者数もかなり少ないです。費用対効果としては低いということが言えるかと思えます。

○委員長（北川勝義君） はい、永徳委員。

○副委員長（永徳省二君） 低いっていうのが、数字で言っていたかないと、何が低い、1が低いのか、100が低いのか、1,000が低いのか、済いません、判断基準が全くできないんですけれども。

○委員長（北川勝義君） ちょっとええかな、口挟むけど。執行部も、よう考えて物を言うてもらわにゃあ。今低いとか言われて、僕は8日間で27人使うて低いとは思ってなかったんじゃ、低い言われたんじゃけど。それから、費用対効果というんじやったら、もうこれから吉井やこうせられな、ネオポリスだけしとかれ。そのかわり、執行部もよう聞いといてくれえよ、委員さんも、僕の意見じゃけど、費用対効果というんじやったら、人口の多い、前回の市長候補へ出とった方は、ネオポリスは3割あるから3割費用対効果でやれえ言うた。吉井は1割未満じゃから言うた。僕、会うたから言うた、ほな固定資産税も市民税も1割にせえよ言うたんじゃ。そらあ、あんたら、固定資産税を3割を3倍で払えよ言うた。こんな失礼なことを言うのは、議会、北海道でも、これ、腹が立つとるんよ。こういうことを費用対効果、それから執行部も、課長、軽々しゅう低いとか、何を基準で言よんかわからんので、僕はかえって8日間じゃと高えと思うとん。そこらを考えて物を言うてもらわなんたら困るんで、それも踏まえて。

○秘書企画課長（杉原 泉君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、課長。

○秘書企画課長（杉原 泉君） 失礼いたしました。今回運行経費につきましては、委託料のほう約60万円になります。1便当たりの平均輸送人員は1.7人ということで、利用者1人当たりの1便にかかる利用経費なんですけど、2万6,379円という数字が出ております。大変失礼いたしました。よろしく願いいたします。

○委員長（北川勝義君） はい、永徳委員。

○副委員長（永徳省二君） ありがとうございます。

○委員長（北川勝義君） 他にありませんか。

○委員（下山哲司君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 下山委員。

○委員（下山哲司君） 今のお話に出たんだけど、これは調査ですから、試験運行ですから調査なんで。ひとつ考え方をしてほしいというのは、福祉部門と採算性の部門と不採算の部分とそういう部分を絡めた考え方でいろいろ計画してもらわにゃあいけんで、採算が合うんだったら民間がやりよんです。だから、民間がやれない部分を行政がやらにゃあいけんという物の考え方で、それは最低限で抑えるように努力せにゃあいけんのじゃけど、そういう物の考え方を持っていていただきたいという、地域から出ている議員の声として記憶にとどめといてもらいたいというふうに思いますんで、よろしゅうお願いします。

○委員長（北川勝義君） 市長、数字上で、数で多いとか量とか、今課長が言われた、把握の仕方が違うと思うんじゃ。

○委員（松田 勲君） じゃから、僕が言よったように、もっと利用率を……。

○委員長（北川勝義君） そう、利用率を上げてもらう、そうそう、じゃから松田さん、熊山

が減ってふえたのを……。

○委員（松田 勲君） 声を聞いて、それをもっと利用してもらえるようにということ。もうける事業じゃないんじゃないから。

○委員長（北川勝義君） 費用対効果で言い出したら、診療所やこう要りゃあしませんが、学校も要らんし。費用対効果の話……。

○委員（下山哲司君） 費用対効果というのは、使う言葉が違う。

○委員長（北川勝義君） 比べていくのが、使う言葉が違う。費用対効果で、またそれで、少ねえとかというのは、少ねえ言われたから僕かちんときて今言よるだけで、少ねえんじやのうて、ここも基本を教えてくれえ言よんじや。基本が……。

○秘書企画課長（杉原 泉君） 委員長、済いません。

○委員長（北川勝義君） あってねえようなもんじやろうけんね、基本が。

○秘書企画課長（杉原 泉君） 委員長、済いません。

○委員長（北川勝義君） はい、課長。

○秘書企画課長（杉原 泉君） 大変失礼いたしました。今のは失言ですので、取り消しをさせていただきますと思います。申しわけありませんでした。

○委員長（北川勝義君） それからもう1点。皆さん、ありませんか。1個だけ、最後もう1個だけ聞かせとってください。

5ページのあかいわ祭り、これは早え話があかいわ祭りのお金の予算のことが……。

○委員（松田 勲君） 映画祭り。

○委員長（北川勝義君） 映画祭りか。映画祭りのこれは、結果的にお金はどこで何ぼになるわけ。

○委員（松田 勲君） 3作見たら1作品に……。

○委員長（北川勝義君） 違う違う、違う違う、そういう意味じゃのうて、個人じゃのうて全体の事業がどのくらいかかると、これに出てねえんじやねえかなと思うて、出とんかな。

○秘書企画課長（杉原 泉君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、課長。

○秘書企画課長（杉原 泉君） 今回は実行委員会形式で行いまして、実行委員会のほうに市から補助金として交付するような形で実施するようにしております。

○委員長（北川勝義君） 何ぼ出すん、何ぼ出すの。

○秘書企画課長（杉原 泉君） 200万円を出すようにしております。

○委員長（北川勝義君） 市から実行委員会へ……。

○秘書企画課長（杉原 泉君） 当初予算のほうで……。

○委員長（北川勝義君） 実行委員会へ200万円な。

○秘書企画課長（杉原 泉君） はい。

○委員（下山哲司君） 委員長、よろしい、関連が。

○委員長（北川勝義君） 最後もう1個だけ。

それで、これ、全部見んでも1作だけでもええという、途中からでも入れたりできるという。

○秘書企画課長（杉原 泉君） はい、委員長。

○委員長（北川勝義君） ちょっと待ってみて、最後まで聞いて。最後まで聞いてくれにゃあ、答えをまた言わな。ひょっとしたら1作目入れたら2作目は入れんというようなことは起きてはこんのん。ようけ入って、あそこのいきいきに。

○秘書企画課長（杉原 泉君） はい、委員長。

○委員長（北川勝義君） 課長。

○秘書企画課長（杉原 泉君） 今回は、1作品につき1,000円という形でチケットを販売いたします。1作ごとですので、3作見たい方は3枚買ってくださいという形になります。

○委員長（北川勝義君） 定員になったら終わりいうこっちな。

○秘書企画課長（杉原 泉君） そうです。

○委員長（北川勝義君） これは何人入れるんですか。

○秘書企画課長（杉原 泉君） はい、委員長。

○委員長（北川勝義君） はい。

○秘書企画課長（杉原 泉君） 一応250人の予定で予定をしております。

○委員長（北川勝義君） 250席な。

○秘書企画課長（杉原 泉君） はい。

○委員長（北川勝義君） ありがとうございます。

○委員（下山哲司君） 委員長、よろしい。

○委員長（北川勝義君） はい、下山委員。

○委員（下山哲司君） 今の映画祭りの実施要領なんですけど、僕らが何かするんだったらここへ事務局の責任者の名前を書いたり、それから連絡先を書いたりいろいろするんじゃけど、ぱっと見たらどこへ電話して聞きゃあええんじやろうかという……。

○委員長（北川勝義君） 赤磐市へ聞きゃあええがな。

○委員（下山哲司君） それが、実行委員会がやるというんだったら、実行委員会の連絡できにゃあいけんしな。もう少し配慮が欠けとんじやねえかと思うんですが。

○秘書企画課長（杉原 泉君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、課長。

○秘書企画課長（杉原 泉君） 濟いませぬ、チラシ等を今後作成いたしますので、またチラシができましたら皆様にお配りをさせていただきたいと思っております。また、広報紙でも御案内のほうをさせていただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

○委員長（北川勝義君） 要らんことをええかな、ついでに。前いろいろ「種まく旅人」で百条委員会もしたり指摘もされて、それでこんだら、その後こんだら小学生に映画見せてえという、シティプロモーションでやったときも少なからず反論もいろいろあって、いろいろありました。皆覚えられとるが。ぜひ僕らも見ていってあげてえと思うんじゃけど、できりゃあ優先するんか小学校でもやりてえというんがあつて、土曜日の日じゃけど、見させてあげるといふんかな。おせえ時間は別よ。「種まく旅人」のほうだけでもなと思うて。これで、できたら学校へスクールバスでも何でも足を出すとか、PRをして、学校関係、教育長、新しい、すぐなられたばあで、今までも前も教育委員長じゃけえわかろうが、それをやってもらいてえなと思うて。来んもんは無理やりせえというんじゃねえんですけど、できたら、僕はもう3遍、4遍ほど見た、価値あるなあと思うて、ええなあと思うて、中にはようねえという人もおるけど、僕はええなあと思うて、個人の受け方じゃから、しとんで。それで、これの絡みでそういうことをしてもらいてんが1点。

それから、これの絡みで、前はこれのDVDが出とったんです。いつごろうちのは出たりすんじやろうか、DVDが、予定がわかりゃあ。

○秘書企画課長（杉原 泉君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、杉原課長。

○秘書企画課長（杉原 泉君） 6月7日にDVDのほうの販売される予定になっておりますので、よろしく願いいたします。

○委員長（北川勝義君） これ、3,000円ほど。2,000円。

○委員（松田 勲君） 万じやろう。

○委員長（北川勝義君） うそ。万。

○委員（下山哲司君） そんなことはねえ。

○委員長（北川勝義君） 安かったな。

○委員（下山哲司君） 1,500円か2,000円ぐれえじゃ。

○委員長（北川勝義君） 3,000円ほどじゃろ。

○秘書企画課長（杉原 泉君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） はい。

○秘書企画課長（杉原 泉君） 3,000円程度だと思います。

○委員長（北川勝義君） 6月下旬。

○秘書企画課長（杉原 泉君） 6月7日です。

○委員長（北川勝義君） 7日。

○委員（下山哲司君） 大体相場は2,500円じゃ。

○委員長（北川勝義君） いや、何でこんなことを言ようというたら、僕はすぐ買ってあげらんじや。選挙対策じゃねえんで。選挙権のねえもんにあげたり、見てえというて、見よった

ら物すげええこっちゃと思うて。せっかくしたんで、市長、もし、これは秘書企画でもどこでもえんじゃけど、総合政策でも、これをつくって、やれえとは言わんけど、やるのもえんじゃけど、何かの標語が出たりとか絵が出るとか何でもええですが、議長賞のときつけるとか、市長賞のときつけるとか、そういうなんで市も何ぼか持ったほうがあええんじゃねえかなと思うんです、そういうことへ使うたり。

僕が何で言ようというたら、吉井のときに40周年、五木ひろしを呼んだときのDVDつくって歌もつくったんじゃけど、今僕は持ったんじゃけど、なかなか市やったら合併してからもう皆のうなって、どこへあるんか1枚もわからんようになったりしとんで、できたら赤磐市へ行きゃあこれがあるんじゃというのが買える、後になっても、この6月じゃねえんですよ、7月、1年後でも行ったら買えるんじゃというのもええことじゃねえかなと思うて。それと、いろいろなイベントに活用してほしいなと思うて。

ということで、それでこっからの本題が、一過性の7月8日の1回で終わりかな、これは。

○秘書企画課長（杉原 泉君） はい、委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、課長。

○秘書企画課長（杉原 泉君） 今年度の映画祭りは今回1日限りとなっておりますが、これも継続して来年度、再来年度と続いていける事業にしたいと考えております。

○委員長（北川勝義君） いやいや、たまたま僕は、ええわ、これはあと深えことは言わんが、200万円じゃけえ、200万円かけて75万円売ったら275万円になるから、そこそこいけるんかなと思うて、もうちょっとでもすんかなといういろいろ思うただけで、別によろしい、他意はありませんので。ぜひ継続して続けるように、赤磐市がここへあるというのを見てもらいてえと思うとんで、お願いします。これはよう覚えとく。

○委員（下山哲司君） 委員長、よろしい。

○委員長（北川勝義君） 下山さん。

○委員（下山哲司君） さっき質問したことに答弁もろうたんじゃけど、後からパンフレットをつくるんじゃなしに、委員会へ出すんですから……。

○委員長（北川勝義君） 6月でええがな。

○委員（下山哲司君） 誰が責任者で、どういう内容でこの金額で最初からきちっと説明してもらわんと。

○委員長（北川勝義君） 7月じゃけえ、6月でええがな。

○委員（下山哲司君） 題目だけ説明してもろうたんじゃあ、説明してもろうたことにならんが。これからもあることじゃから、この重み、説明する、価値観が、責任者ぐらい、連絡先ぐらいきちっと載せて……。

○委員長（北川勝義君） それをやるんじゃけえええがな。

○委員（下山哲司君） 200万円出して実行委員会でやってもらうんだという、そこぐらいま

での説明はきちっとしてもらわにゃあ。

○委員長（北川勝義君） 200万円出して……。

○委員（下山哲司君） 紙出したら済むという問題じゃないので、もう少し真剣度を増してください。そういうことだけで。

○委員長（北川勝義君） 執行部のほうにも今言われたことをよく頭へ入れて、下山さん、7月のそうむちゃ言わんでも来月でええと思うんじゃけど、それも1つの方法じゃけど、出されたら答えれるように、先ほども200万円というのを先に言うていただいてやるほうがええと思うんで。余り言よったら事前審査みてえになるようなことになる、そんなことをしょうんじゃありませんのんで、下山さんもそういう意味で言よんじやのうて、きちっとして、責任者がということをやよんで、ぜひお願いしてえと思ひます。

それから、皆さんにお願いいたします。

きょうは、昼食をとっておりません。それで、市長も1時から公用で、他の用途があるという、何が、どっちが大事なんなというたら委員会がとか、議会が、本会議が大事なのはそれはわかり切っとすることで、市長にもほかのことをしていただくにゃあいけんということであります。皆さんにはこの後も協力していただいて、1時まで市長おられますんで、まだほかにも議題もありますんで、スムーズにできるように協力願ひます。それと、トイレ休憩等はとりませんのんで、行かれる方は何も言わんでよろしいんでトイレ行ってください。そういうんでお願いしてえと思ひますんで、よろしくお願いいたします。

皆さん、それでよろしいか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（北川勝義君） そのようにさせていただきます。

それでは、総合政策部で他にありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（北川勝義君） なければ、総合政策部についてはこれで終わりたいと思ひます。

それで、先ほど私が申し上げました山陽団地の活性化のところの意見の委員さんの件、これについては議事録から削除させていただきますんで、事務局のほう、よろしくお願いいたします。

続きまして、総務部の説明願ひたいと思ひます。

○くらし安全課長（中川裕敏君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、中川課長。

○くらし安全課長（中川裕敏君） それでは、総務部から説明いたします。

総務部資料1 ページをお願いします。

6月定例議会上程議案ということで、補正予算をくらし安全課から2案件の予定でございます。

①といたしまして、防犯対策費として、市が管理する防犯灯が約3,400基ありますが、燃料費調整額の高騰により電気料金に値上がりが生じたことにより、光熱水費を当初予算1,122万3,000円でしたが、171万3,000円増額を予定いたしております。

続きまして、②災害対策費として、3つの案件によるものですが、災害の発生に備えるものとして防災ハザードマップの作成を行い、全戸配布により市民各人が住んでいる地域の防災上の特性を把握するもの予定をしております。次に、発生後の措置に関する計画ということで、業務継続計画、ビジネス・コンティニュイティー・プランの頭文字でBCPにつきまして、大規模災害時において災害対応に当たる市役所の業務は膨大になりますが、本来の住民サービスなどの業務を維持するため優先的に実施すべき業務を明確にし、継続した業務を行う必要があるため、内閣府が策定したガイドラインに沿って業務計画を行うものです。次に、被災者支援システムとして、大規模災害時には被災者の生活再建支援のため罹災証明書の遅延なき発行、被災者台帳の作成を行うことが災害対策基本法に義務づけられております。こうした業務を限られた人員で短期間に正確かつ迅速に行うため、システムを導入するものでございます。

以上、災害対策費として3件の委託料1,002万3,000円を増額予定としております。

くらし安全課からは以上です。

○総務課長（原田光治君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、原田課長。

○総務課長（原田光治君） 総務部資料の2ページをごらんください。

監査制度の概要についてというところになりますけれども、監査制度につきましては歴史的に古く、機能が強化されてきた経過等があります。そういった中で、市としまして新しい機能が取り込めないか研究してるところです。本日は、今後へ向けまして、まず制度の概要説明をさせていただこうと思っております。

1番の監査委員制度につきまして、自治法の発足当時からある制度でありまして、独立の第三者機関という位置づけになっております。職務権限につきましては、また別の、下に表がありますので、そこであわせて説明させていただきます。

2つ目としまして、外部監査制度というのがありまして、これは直近の平成9年の法改正で導入されております。こちら、先ほどの監査委員の執行部の一つであります第三者執行機関に比べまして、地方公共団体の組織に属さない外部監査委員というものが契約に基づきまして監査する制度となっております。外部監査人には、弁護士、公認会計士、税理士等、特定の相手方に限られております。この契約に当たりましては、監査委員の意見を聞くことと議会の議決を経るということが必要になっております。

3としまして、監査委員制度と外部監査制度の違いですけれども、監査委員制度は御存じのとおり、自治法に基づきます一切の全ての監査を行うことができます。外部監査人による監査

につきましては、自治法に基づきます監査の一部を条例を定めた上で行うことができるものとされており、そうしたことから、外部監査制度を導入しましても監査委員の監査はなくなるということになります。

今概略を通してきました監査委員の監査、あと外部監査人の監査ということで、表でまとめたものがそっちの今ごらんのものになります。監査委員による監査が左端、上から順番に下まで十数種類ありまして、外部監査人の監査につきましては監査委員の監査によるもののうち丸印がついてるところ、網がけで丸印がついておりますが、その部分につきましては個別に契約をすることによりまして監査の執行が行えるというものとなっております。

続きまして、3ページをごらんください。

監査制度に監査委員監査と外部監査、2つがありまして、外部監査制度の種類につきましては2種類があります。1つ目が包括外部監査といいまして、都道府県、政令指定都市、中核市などが必須となっております、市町村では任意の設置となっております。こちら、財務監査等が中心になっておりまして、監査の方法につきましては外部監査人の指導で監査が行われるものとなっております。その右隣の個別外部監査につきましては、こちら、全ての自治体で任意に設置、条例制定によりまして任意設置できることになっておりまして、監査の対象は長からの要求、住民や議会からの要求によるもの、要求があった際に通常監査委員監査にかえまして個別外部監査という制度が利用できるというものとなっております。あと最後に、住民監査請求に基づく監査というのも個別外部監査の中に盛り込まれております。先ほども触れましたが、監査の方法につきましては、要求があった場合にその都度外部監査委員と契約を締結し、監査が実施されるというものとなっております。

5番の個別外部監査制度を今研究中のものでありますけれども、メリットにつきましては非常に抽象的な書き方になっておりますが、地方公共団体に属さない者が契約を結んで監査を行うことによりまして監査の独立性を強化することができるですとか、一定の有資格者、法律家等の専門家に限って契約できるというところでやりますので専門性の強化ができますですとか、あとこういったプラスアルファの監査制度を設けることによりまして監査機能に関する住民の信頼を高める、アピールになるといった点が考えられております。

6番でその他のところですけども、現状で総務省の調べのデータ、平成25年末のものしかないんですけども、都道府県、政令指定都市、中核市を除く一般の市区町村で条例制定してるところが1,681団体ありまして、そのうち77団体が条例制定というデータが残っております。県内では、玉野、真庭、備前、瀬戸内の4市が条例を制定済みであります。直近の実績が不明確な部分があるんですけども、24年度の数字では個別外部監査契約を締結したのが全国で5団体というような数字としてあります。

以上、本日は概要説明でございました。以上です。

○委員長（北川勝義君） 執行部のほうから説明が終わりました。

委員の皆さん、何か質疑はありますか。

○委員（下山哲司君） 委員長、よろしい。

○委員長（北川勝義君） 下山委員。

○委員（下山哲司君） 今説明があった監査の6のその他で、4団体で条例制定済みが25年で、24年で何で5団体。この反対ならわかるけど、おかしいのかな、僕が。

○委員長（北川勝義君） 契約を締結した分と新しいとこと。

○総務課長（原田光治君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、原田課長。

○総務課長（原田光治君） 24年度に実際に契約しまして個別監査を実施した団体が5団体ということであります。

○委員長（北川勝義君） 全部合わせてじゃろ。じゃけえ、全部合わせての話をしょんじゃろ。

○総務課長（原田光治君） はい、そうです、全部合わせてです。

○委員長（北川勝義君） 下山さんは4団体の話しかしようるだけで、4が5になるのはおかしい言ようるだけで。そういう意味じゃろ。

○委員（松田 勲君） 条例は制定したけど、締結はしてねえということじゃろ。

○委員長（北川勝義君） そうそう。全国の話をしょんじゃろ。

○総務課長（原田光治君） はい。

○委員（下山哲司君） 岡山県。

○総務課長（原田光治君） 済いません、委員長。

○委員長（北川勝義君） はい。

○総務課長（原田光治君） 全国で条例制定、制度を設けてる自治体が全体で1,681団体ありまして、条例制定してるのが77団体ありまして、その中で、全国の一般市区町村の中で契約を結んで個別外部監査を実施したのが5団体、県内で制度を設けてるのが4団体ということですよ。ややこしくて済いませんでした。

○委員（松田 勲君） 制度を設けると契約しとんとは違う。

○委員（下山哲司君） わかりました。失礼いたしました。

○委員長（北川勝義君） 他にありませんか。

○副委員長（永徳省二君） いいですか。

○委員長（北川勝義君） はい。

○副委員長（永徳省二君） 1ページの②番、災害対策費のところなんですけど、1,000万円以上の増額を予定してるということなんですけど、それで余りにも何か、済いません、説明が口頭だけで不親切というふうに思うんですけども、もうちょっとせめてここにハザードマップだとか事業継続計画とか、あと罹災証明の云々というのはもうちょっとここに書いてあってしか

るべきかなっていうふうに思ったんですが、いかがでしょうか。

○委員長（北川勝義君） 中川課長。

○くらし安全課長（中川裕敏君） 濟いませんでした。説明のほうで総額を書いただけで、細かいものについて紙に書いてということにしとけばよかったのを反省しております。濟いません。

○委員長（北川勝義君） よろしいか。

○副委員長（永徳省二君） はい。

○委員長（北川勝義君） 中川課長、僕から言うのはおかしいが、ハザードマップを今つくつとらあな。

○くらし安全課長（中川裕敏君） はい。

○委員長（北川勝義君） これは、またこれの見直しぐれえで考えときゃあええん。見直しというんか、どういいうんかわからんけど、どんなんですか。

○くらし安全課長（中川裕敏君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、課長。

○くらし安全課長（中川裕敏君） 今全戸配布しておりますのは平成19年に作成したのですが、岡山県において再度現場のほうへ実際に入つての調査を行つております。その調査が平成28年に告示のほうも全て済みました。ということで、ここでそれに対してのハザードマップ、範囲が多少変わった部分があります。以前の2万5000分の1の地図上でのハザードマップから進歩したものということになっております。

○委員長（北川勝義君） 例えば、前で言うたら、吉井で佐伯北診療所やこうもつかつてしまふと言ふうたが、また違ふたり、それから消防署やこうが……。

○委員（下山哲司君） 補正予算の件。

○委員長（北川勝義君） わかつたわかつた。なつたというたら、そういうところの見直しを全体にかけるということやな。

○くらし安全課長（中川裕敏君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 課長。

○くらし安全課長（中川裕敏君） 全体を、県下全てを、赤磐市も当然全部を再調査しております。

○委員長（北川勝義君） 今、ちょっと待つて、追加の、この間もろうたが、奥田君、あれ、後から……。

○議会事務局長（奥田吉男君） 地域防災計画。

○委員長（北川勝義君） 防災計画の中も変わるん、これが変わってくるから。

○くらし安全課長（中川裕敏君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 課長。

○くらし安全課長（中川裕敏君） いえ、防災計画は……。

○委員長（北川勝義君） 今のままいっとるわけじゃな。

○くらし安全課長（中川裕敏君） 防災計画をもとに、それに対応するということになるとは思いますが……。

○委員長（北川勝義君） 課長、じゃけえ防災計画はもう今のままで生きとるというこっちゃな。ここで出すのは、ハザードの災害の出すだけでという意味のとり方でええんじゃな。

○くらし安全課長（中川裕敏君） はい、そのとおりです。

○委員長（北川勝義君） わかりました。

それからもう1点、僕、これ全然わからんのじゃけど、監査制度、皆わかったようなわからんような、せっかくここで監査委員決めたのに、監査委員制度何をするんじゃろう。いやいや、今ごろ何かこれがはやりかというんか、農協も外部監査をせえとか、農協団体でもやれえとか、いろいろ、岡山東も外部団体を入れてもよろしいと、しかし今の系統団体でやるということでやるんじゃけど、これ突き進んでいったら、僕はもっと、監査していくのもええんじゃけど、今のままで監査できるんじゃねえかと、何を意図してこれをされとんか、たった、やっても5団体ほどしかねえというたりするのに、やられるんかという意図がわからんのじゃけど、これをやる前に会計制度を見直しをせにゃあおえんのんじゃねえん。今の貸借対照表の簡単なことをせずに複式の、正式に会計をやるようになかったらおえんのんじゃねえんかな。そうして、あえてそれには専門性も要るからというて入れていくんじゃったらだんだんわかっていくと。

それから、外部から今ごろよう、これのメリットというのは今、メリットが何か一定の資格を持つ専門家がどうのこうの言うたけど、結果的にこういう人を入れときゃあ監査請求があったりおかしいようなことを市で調べる、何でもかんでも百条というたらいけんけど、例えば何か調査をするというのが議会から出ても、民間から出ても、市民から出ても、このところで調べたら、これは必要ありませんよと回答できる場合もあるから、そういうメリットもあるんじゃねえかと思うんじゃけど、もうちょい今言うメリットがようわからんのじゃ。メリットというて何か。原田課長、すつと軽う言うたんじゃけど、これは次のところでもええんじゃけど、メリットのもうちょい詳しいのをもらわにゃあ困るなと思うてな。わかります、原田課長。わかった、言ようることの意味が。今回じゃのうてもええんじゃけど、次のときでも、何かでも何か、これだけ見たんじゃ何か、せにゃあおえんのんじゃけど、したわ、せんのんじゃ、条例を制定したんじゃと、しかし契約は結ばんのんじゃというたら、何のためにしょんか意味わからんのんじゃ、僕としては。もうちょつとメリットというのは、もっとこうこのメリットがあるんですよというのを勉強するべきじゃねえかなあと思うとんですけど、どんなですか。わかりゃあ教えてください。

○総務課長（原田光治君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 原田課長。

○総務課長（原田光治君） これにつきましては、現在の監査委員制度もできるんですが、例えばとある部署の事務事業の妥当性の調査ですとか、調査によりまして効率性ですとかコンプライアンスの面からの、そういった指導を受けたりできることが挙げられます。あえて外部監査でというところでどういうメリットがあるかということですけども、ケース・バイ・ケースが考えられると思うんですけども、それと外部に対するアピール性、市民に対するアピール性ですとか、そういったところでそういった手法をとったほうがいい場合も考えられるかなと思っています。具体的な事例等、詳細につきましては、今後次回に向けまして資料とともになると思っておりますので、よろしくお願いいたします。

○総務部長（前田正之君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 前田部長。

○総務部長（前田正之君） 確かに、きょう監査制度の概要を説明させていただきました。現在私たちの内部監査、これにお世話になってやっております。そういう中なんですけど、現在いろんな住民監査請求もあれば、この制度というのを新たに市のほうの長のほうからも外部監査請求もできるというような内容もあります。

○委員長（北川勝義君） ちょっと待って、もう一遍、もう一遍。

○総務部長（前田正之君） 例えば執行部の市長であるとか、そういう、市長のほうで監査請求を請求すると……。

○委員長（北川勝義君） 執行しようる者が。

○総務部長（前田正之君） というような制度もあるんです。

○委員長（北川勝義君） 外部監査というたら。

○総務部長（前田正之君） はい。そういうのを順次、次回、当然委員長が言われたとおりでと思います。この制度を御理解いただきながら私たちも進めてまいりたいと思いますので、例えばどんな実例、こんな内容をこういうふうな制度でやっていくとかというようなこともこれから説明をさせていただきながらいきたいと思っておりますので、次回またそういったものもお話をさせていただきます。よろしくお願いいたします。

○委員長（北川勝義君） ほな、ここで監査制度の概要を6月議会へ出すとかという話じゃねえんじゃな。

○総務部長（前田正之君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、前田部長。

○総務部長（前田正之君） 6月議会に何か条例の制定であるとかというようなことではありません。

○委員長（北川勝義君） いやいや、そういうて思うて、今そのつもりで話を聞きようから、はいはい、わかりました。

○総務部長（前田正之君） こういった形のを執行部のほう考えておりますので、今後説明をさせていただきます。

○委員（下山哲司君） 前の議会が途中やめになつとるけえな。

○委員長（北川勝義君） そういう意味か。

○委員（松田 勲君） 外部監査で個別の外部監査を……。

○委員長（北川勝義君） あれ、外部監査やめたろうがな。

○委員（松田 勲君） 進めていきたいんだけど……。

○委員（下山哲司君） 勉強するということでやめとんで。勉強しないということでやめとんじゃねんよ。

○委員長（北川勝義君） 勉強するということでやめたんか。

○委員（松田 勲君） もっとわかりやすく。

○委員長（北川勝義君） 僕も今局長に聞いたり、下山さん聞いたり、監査制度の見直し、僕は監査制度を、単純に言うたら瀬戸内市、備前市、赤磐市としようということが何か水面下の上に決まったようで、せえでやるじゃやらんじゃとかというていろいろあつて、めげたり、それでうちのほうじゃどうすんだというて、今後勉強していこうというぐれえで終わつとって、僕はもうこれ立ち消えで終わったのかなと思うた。大変言い方悪いんじゃけど、僕らでもわかりにきいんで、理解しにきいんで、新人の方もおられたり、新しい構成がえも1人おられるんで、前やつとったんじゃけえええというて、あなたらはええかもしれんけど、ここへおられる方、知らん人もおられるんじゃから、順番にこういうことの議題をしとって、大変失礼な言い方じゃけど、執行部としては今まで従来でこういう論議をしとったんじゃと、審査や調査しとって、その中で今後検討しましょうということになったんで、今こういうことをやらせていただいてもろうとんですというのを説明あつたほうがええなと思うて。それで、僕としたら、これがもう6月ぐれえには出されるんじゃねえかと思うて、そのことばあ頭があつて、4月に監査委員決めたのに、はや6月に出すというて、どうも変な話。

○委員（松田 勲君） やめるわけじゃ……。

○委員長（北川勝義君） いやいや、わかるわかる、検討するというのはわかつたんじゃ。これからはそういう説明もちょっと、いっつもせえというんじゃねえけど、皆さんは前やりょうたんじゃけえわかるという頭の中で判断されとるけど、我々はわからんのもあるんで、あなたらプロパーじゃからよう説明してもらわにやあわからんので、ぜひ今後は、市長、そういう説明も踏まえて、これも大事なこつちやと思うんで、勉強していくということぐらいで、皆さん、そのくらいでよろしいですか。まとめじゃねえけど、お願いと踏まえて。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（北川勝義君） ほで、次の6月のときはこういうなんも何ぼか出てくるということの話ですね。もし総務の関係の委員さんには、わかつて、原田課長、メリット、言うたら今言

よる、もしあったら総務委員さんに送ってください。勉強するんで、こういうなんがあるというような資料があったら、何もねえのにたたき上げでやりようたらわかりにくくなるんで、ぜひお願いします。

それから、最後1点だけ聞かせて。光熱水費が上がったというて、要するに燃料代で171万3,000円ふえるというのは、これ、当初の予算が甘かったん、電気代が上がるということか、単純な話。いろいろなこと、太陽光じゃ何やかんやで下がったりいろいろしょうるが。何で上がるん、高くなるん。

○くらし安全課長（中川裕敏君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、中川課長。

○くらし安全課長（中川裕敏君） 電気代の支払いにつきましては、防犯灯につきましてはメーターのない定額で支払っているものが主になっております。その定額につきましては、前払い制度というものを使いますと、市全体では約六十数万円安く上がりますので、その制度を使っております。それで、当初予算のつくったときから、その後値上がりについての情報というのが入ってきますので、それについてここで一気に、規格によるんですけど、約6%から20%ほどの値上がり。それで、20%分というのが県道沿いにある水銀灯の結構大きな額の分になっておりますので、それについて相当な今回補正ということをお願いしております。

○委員長（北川勝義君） 市に金が要ると思うて、市長、きのうも歩きょうたんじゃけど、金付免というて市長はわからんけど、通るところでも真っ暗で、両方田んぼで2メートルぐらいあって落ちそうなけえ、携帯をこうやって開きながら歩きょうります。ネオポリスやこう、そねえなこと絶対ねえわな。目つぶとつても歩けると言うたらおえんけど、うちのところは歩けんけえ、こういうときに言うたらおえんのんじゃけど、中川課長、防犯灯の要らんようなところはのうして、市で払ようるところ、要るようなところは通学路じゃねえおえんのんじゃとか、ああじゃこうじゃいうてつけてもらいてえんじゃけどな。言わんとしょうることわかるかな。100メートル行かにゃあ家がねかったら、その間は真っ黒じゃが、何もなかって。そこはいろいろ危険なということを言いたかったんじゃ、勝手な話で。よろしい、要望じゃけん。

総務部のはこれでよろしいか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（北川勝義君） それでは続きまして、財務部を説明願います。

○財務部長（直原 平君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 直原部長。

○財務部長（直原 平君） 29年6月定例議会の提案予定案件ということで上げさせていただいております。課が複数にわたりますので、私のほうが、1ページ、説明をさせていただきたいと思っております。

まず、1ページをごらんいただきまして、税務課からでございますが、御当地ナンバープレートの作成費、これにつきましては事務の管理用品ということになります。原動機付自転車に赤磐市独自のプレートを導入することによりまして、赤磐市に対する郷土愛の醸成と市内外へのPRに役立てるというもので、48万6,000円を予定しております。

続きまして、管財課の関係でございます。赤磐市の専用封筒作成費、これにつきましては2年に一度作成している専用封筒の印刷製本費でございます。43万5,000円の印刷代を予定しております。

続きまして、公民連携計画策定支援業務委託料、これにつきましては、公共施設のマネジメントを推進、リノベーションまちづくりを中心とした公民連携基本計画をことし策定をしたいということでございまして、そのための支援業務委託料を216万円計上予定をさせていただきたいと思っております。

それから、次です、本庁舎耐震改修施設調査費等委託料ということで、額が大きくなるんですけども、1,286万6,000円。これにつきましては、本庁舎の課題の整理、それから現時点での劣化調査、業務再配置計画、また耐震・電気・給排水設備等の改修計画、あるいは施設整備概算工事費・工程計画、ライフサイクルコスト検討等を盛り込みました本庁舎の総合的な調査計画策定の委託料でございまして、この本庁舎のあり方につきましては今後少なくとも20年後には庁舎を新築、建てかえるということを前提といたしまして、それまで現庁舎を有効に活用するという見地から、現段階での本庁舎の耐震化につきまして現在の庁舎の老朽化等の現状、また問題、改修に向けました基本的な考え方など、この後2ページから説明をさせていただこうと思っておりますので、よろしく願いいたします。

それから、1ページ目の最後でございます。管財課のほうで桜が丘西1丁目の倉庫の解体工事費、これにつきましては桜が丘西1丁目に現在倉庫として使用しております公有物件がございます。この老朽化に伴いまして、これを解体させていただくということで454万2,000円の計上を予定しております。よろしく願います。

それでは続きまして、2ページ以降、庁舎耐震化の方向性を御報告させていただきます。

○管財課長（小坂憲広君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、小坂課長。

○管財課長（小坂憲広君） 管財課から本庁舎の耐震化の方向性について説明させていただきます。

財務部資料2ページからごらんください。

現在の本庁舎につきましては、昭和50年の建設から41年が経過し、資料の2ページ、3ページに載せていますように、施設、設備の老朽化、それから庁舎の狭隘化、誰にでも使いやすい施設、設備、これはユニバーサルデザインといいますが、それへの対応不足、それから耐震性の不足などさまざまな課題を抱えている状況でございます。

これらの課題を解決していくために、次のページの4ページ目からになります、整備手法について内部で検討を重ねてまいりました。一般的に鉄筋コンクリート造建物の寿命は60年から65年であること、それから新市建設計画には本庁舎は山陽町役場を活用し、施設の老朽化等の実態を踏まえながら整備を行うこととなっていること、それから本庁舎が現在地を離れると公共機能が分散し、来庁者の方に不便が生じ、また国が提唱するコンパクトシティのまちづくりに逆行すること、それから昨年の熊本地震では耐震性の不足により熊本県内の自治体において庁舎が損壊しています。また、南海トラフ地震の30年以内の発生率は70%、規模についてはマグニチュード8から9クラス、岡山県では震度6強と言われておりまして、これに備えても災害時に防災拠点となる本庁舎の耐震化を早急に行う必要があること、耐震改修においては有利な財源がありますが、新築するに当たりましては財源が確保できないことなどの点から、現庁舎を経済的、効率的な手法によりまして耐震化を進めた必要最低限の改修を行い、なるべく長くもたせることが最適であると考えております。また、改修に向けた基本的な考えとしましては、まずは災害時に防災拠点となる本庁舎の安全性を確保し、ライフサイクルコストを考慮した経済的な手法、市民サービスに影響を及ぼさないよう、執務室の移転等を短期間で行い、移転先としては近隣の公共施設等を活用するなど最大限の配慮を払い、効率的な方法で長寿命化を図りたいと考えます。

今後のスケジュールにつきましては、5ページ目に載せております。今年度で耐震改修調査、改修計画の策定、平成30年度に実施計画を行いまして、31年度、32年度で工事のほうを行いたいと考えております。財源につきましては、充当率100%、交付税措置70%の緊急防災・減災事業債を考えております。

続きまして、6ページに参考といたしまして平成23年度に実施しました本庁舎の耐震診断の結果を載せております。構造耐震の指標でありますI s値の目標値は、市役所は0.9以上となっております。これに地域係数、岡山県が0.9となっております。これに乗じた0.81が耐震構造の目標となっております。結果につきましては、本庁舎1階から3階までが全て基準値以下という数値になっております。なお、コンクリートの圧縮強度につきましては、1階と3階は基準値の20.6ニュートン以上、2階は基準値以下となっておりますが、十分な強度は確保されていると、問題はないとの結果が出ております。

管財課からは以上でございます。

○委員長（北川勝義君） 財務部の説明が終わりました。

委員の皆さん、何か質問がありますか。

○委員（下山哲司君） はい、委員長、よろしい。

○委員長（北川勝義君） 下山委員。

○委員（下山哲司君） 本庁舎の耐震というのは、これは以前に調査をやって、耐震するか建てかえるかという話が出て、そこから先には進んでないと思うんです、全く。それなのに、こ

れを見たらもう耐震をするというような形に、事業計画も事業スケジュールまで載っとなんじやけど、これはどういうことなんですかね。その辺の説明をしてください。

○財務部長（直原 平君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、直原部長。

○財務部長（直原 平君） 検討というところで、内部で、先ほど課長のほうも説明をいたしましたけれども、検討をいたし、私が言いましたように、新築ということになりましたら、今の耐用年数が40年たっておりまして、耐用年数が60年ということでございまして、20年後にはもう新築しなくてはどうしてもだめだということでございしますが、それまでのつなぎといひましようか、状況が今年の4月に熊本地震が発生したということもあり、また国からの耐震化要請も来ております。それから、28年3月には赤磐市の耐震改修促進計画というものも作成されまして、一応庁舎等の耐震の強化をそれによりまして促されているわけでございまして、そのような状況の中で耐震につまましてここで有利な財源が32年まで来ておりますから、それを活用して、とりあえずつなぎとしてやっていくという方向性で我々は考えております。きっちりどうするかというのは結論が出ておりませんが、将来的にはするということでございませぬ。

○委員（下山哲司君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 下山委員。

○委員（下山哲司君） 言ようられることはようわかる。わかるんじやけど、12年間、赤磐市合併して以来経過した中で、今までの流れの中でどうするかというのは大きな問題だった。議会も執行部も頭を抱える問題であるというのはもう前からわかっとなんじや、ここで急にこれが決まったような形にしか見えぬので、もっと赤磐市全体を今後どうするんか、大きい考え方の中での考えじゃないんかということで進んでいきようたんじやけど、これだったらとりあえず痛えところへばんそうこう張っとなんじやというだけの話になっとなんじや、そういうことじゃなしに、本来なら4年前に友實市長ができたときに継続してその事業をやっとなんじやあいにけんものを4年間とめとったわけじゃから、そういうことを踏まえて、今これをぽんと出されてきたら、今まで流れをしてきた議会もそうじゃろうし、皆納得せんと思ひますよ。じゃから、そういうことにおひてもう少し慎重に、相談が先にあっとなんじやあいにけんべきじゃないかというように思ひますが、市長のほう、どう思ひれます。

○市長（友實武則君） はい。

○委員長（北川勝義君） 友實市長。

○市長（友實武則君） まことに相済ひませぬ。本庁舎の件につまましては、私のほうで振り返っとなんじや、これまでの経過を見させていたひておひます。そして、今の本庁舎の耐震性についても研究をさせていたひてきたところでごひます。今の庁舎は、耐用年数だけの議論を申ひますと、まだまだ耐用年数が来ているといふ状況ではございませぬ。赤磐市の今の状況を見

ると、耐用年数がまだ残っているということから、この建物は大事に使いたいというふうには思っております。そして、耐震化の改修が可能かどうか、こういったことも研究を重ねてきたところでございますが、これは技術的には可能ということでございます。そして、庁舎のあるべき姿を論じたときに、スペースあるいは機能、こういったものをもっと専門的に考えて研究をするべきだということから、今日まで検討を重ねてまいりました。その中で、これを本格的に耐震改修するにしても、このスペースを、過不足を検討するにしても、今私たちの直営による検討にはもう限界が来ているということを理解した次第でございまして、これを進めていくに当たっては専門家の知識を導入しての検討が必要ということで今回予算をお願いしているところでございます。

そして、方針としては、今までの議論はありますけれども、今ここで赤磐市として限られた財源の中でこの庁舎を考えていくと同時に、今後の赤磐市の発展を目指した施策も実施していかないといけない、そういった中で考えさせていただいて、できることなら庁舎を耐震改修して長寿命化、そういったことで市民サービスの低下を招かないように、限られた財源を赤磐市の発展の施策に変えていきたい、こういう思いは十分ございます。しかしながら、安全性について、先ほども申しましたように、専門家の解析等を踏まえて進めていきたいというふうな考えでの予算要求でございます。

私のほうからは以上です。

○委員（下山哲司君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 下山委員。

○委員（下山哲司君） 市長が言われることもわかります。じゃけど、以前の流れからすれば、今後の赤磐市をどうしたらいいかというのが基本的にあったんで、ただ庁舎を耐震にするかという話だけの問題じゃなかったと思うんです、今までの流れが。そういう中で、今の新耐震にすれば、今のある柱があったら約1.5倍の大きさにならなんだら新耐震の対応にならんというふうには私は認識しとん。じゃから、そういう認識の中で考えたら、今の柱がどんだけあって、どのくらいの今度は利用面積が減るか、そういうことも考えたら、今の庁舎では今の機能をやっていくのは不可能じゃないかという話も出とるわけです、今までの中で。そういう中でやれば、ただ耐震が可能じゃから耐震をすればいいという問題じゃないと思うんです。赤磐市の一番基本の、赤磐市をこれから支えていく本庁舎ですから。支所ならいいです。じゃけど、本庁舎ですから、やっぱしもっと大きい考えの中から考えて今まできとんじゃから、その継続も必要なんじゃないかと。やれここで耐震をすればいいんじゃという話じゃないと思うんです。じゃから、そういうことも考えて意見があるんかなと思うんですが、全くもう、今は耐震予算が32年までもらえる補助金があるからやると。そういう考え方じゃトップとしての考え方は間違うと思うんですが、その辺を答弁ください。

○委員長（北川勝義君） 市長。

○市長（友實武則君） 今、耐震性のことについて説明をさせていただきましたが、それ以前にこの本庁舎のスペースの問題、それからいろんな市民の方々が利用するに当たっての利便性、そういったことももちろん考えながら、ここの庁舎があるべき姿はどのようなかということもこの調査の中ではっきりと描き出して、これが可能であれば改修等によって機能を拡大させながらこの庁舎の長寿命化等を図っていきたい、こういう意味でございますので、今の下山委員の御指摘にある項目も今回の検討に加わっているということを御理解いただきたいと思います。

以上です。

○委員長（北川勝義君） よろしいか。

○委員（下山哲司君） きょうのところはよろしい。

○委員長（北川勝義君） 市長、中へ踏み込むんじゃないけど、下山さんが言うたんはちょっと正論があるなと思うて。別に正論があるとかねえとか言うんじゃない、大概意見が合わん、このごろは合い出してちょっと変わるとんじゃけど、ちょっとおかしんよ、むちゃばあ言ようらあとということもあるんじゃないけど。むちゃもへ理屈も反対もあっているいろいろの中で、今は建設的な意見。

赤磐市は、これは下山さんが一番正しい、そりゃあどうこう言うても。僕もそう思う。全体を考えりゃあじゃけど。しかし、お金と予算と時間とのことを考えていきようたら、それを判断するのが政治家じゃあから、市長が判断していかんやあおえんのんじゃないから、それは市長に任せてやらさにはあいけんと思う。

市長もさっき言うた、何のために話したんか、中川課長にも原田課長のときも言うた、先に言うてくれというて言うたんです。先に今市長の言うような言葉を言うてくれとったら、下山さんもこういう言い方をまだしょうらん、僕も言わんであえて。

僕は、打ち合わせしてくれえて聞いて、これをするんかと、おえまあがなと、直原部長に大分言うたがな。せえから、小坂課長にも言うたがな。こんな簡単なわけはねえ。総合政策部長はどうしたんなら、死んだんかやめたんかとぐれえまで、そこまで言うて。別にしとうねえ、本気で言ようるから言ようるわけ。下山さんが正しい、ただ時間がなかったらいろいろなことがあるんで。僕は最初に冒頭それを言うてほしかった。言うたらまだ納得が違うんで。そりゃ新築すりゃあ高え、土地も用途も要るし、高うなる。跡地の処理もいろいろなことがずっとある。じゃから、そういうことを踏まえて全体の調査をした上で耐震がええとなったらいけると。場所的なこともあって、いろいろなことがあると思うんじゃないけど、やっぱりここは、この庁舎というところがあるが、これはようても悪うても仕方がねえというんか、ここへしちやらにはあと思うとんが。

吉井でいうたら福祉ゾーンというて、診療所も、あそこへあかまつ荘、保育所も置いてくれというと同じで、やっぱりこれも一つの考え方で言うたら、この山陽という赤磐市の本庁の

あるとこで、市長が公約を書かれとる話が、庁舎の分散せえ、コンパクトシティとかいろいろなことあるけど、何ぼか分散するようなことになるかもしれんけど、今さらもう。

この間もバイオリンの福田君のやったときの冷暖房もきかんというようなことで、音もできんというような、そねえな公民館やこうは必要ねえんじゃねん。ああいうようなことも改修すりゃあえんじゃ。改修してすりゃあ場所も使えるし、なるべく安うして、いろいろなことをこれから調査してほしいと思う。

ただ、もうこれで今下山さんが言うた事業スケジュールというたら、完了する、金があるけんするんじゃとこう、下山さん逆で、物すげえ友實さん推しようったら、いや、それでええと言うかもしれんけど、冗談、そりゃざっくばらんな話、これほんまの話じゃもん、笑い話。じゃけど、僕らが言うても、市長と執行部のほうが何ぼ考えても耐震がええか、新築がええかというのはわからんという、建てかえがええかわからんと言よんで、わからんということになるんじゃったら、ライフラインというたらおかしいけど、市の職員、市民が全部通ってくるこっちから、とりあえず早急に執行部のほうで考えてみて、これ以上出んというんで、こういうコンサルにしてどっちがええかやりてえ。それで、中の、今下山さんの言うたようなことも今後考えていきてえ。もし、建てかえもよけりゃあ。じゃけど、建てかえして40億円かけて、知りませんよ、30億円でもやると、美作にはやった。そうしょうるよりは、はっきり言ってせにゃあおえんけど、もっと山積みにしとることがあるわけ。もっと安う耐震の補助金もろうてやってもらいてえこと、次の熊山診療所の周辺整備もせにゃあおえんし、いろいろなことがあるんで、そりゃあもう市長が議会に諮ってだんだんやっていかんといけん。手抜きもあったというの最初冒頭断りしてもろうてから、こういうことを調査させてもらいてえというのをやってもらいてえと思うた。今、下山さんに答弁でお断りしようたからえんじゃけど、やっぱり軽う思われたらいけんというんかな、僕はもし庁舎を新築すんじゃったら、議会のほうがこれも議会で調査特別委員会や建設委員会でもつくろうぐれえ言わにゃあおえんのんです。庁舎新築じゃねえからな。新築というような話が出たら絶対議長やってくれというて、議長も思よって、そういうお願いしていかなおえん。

そりゃ前のときの図書館をやろうというたときに、松田議員が特別委員会つくりようた、文教に任せてくれりゃあええというて、文教で結果せなんだんが覚えがあるんじゃけど、それでも8割、9割思うたんができたんでええんじゃけど、そこんことをせなんだら、せつかくええことをしていこうというのに説明してなかつたら説明不足で足を引っ張るようなことになると思うんで、そこんことをぜひやってもらいたい。市長も再度このことについて、今財調もくれたり、いろいろ補助金の起債もあって、いろいろある中でできていくというんで、使いてえというのもあるんじゃろうと思うし、そこんところ、もう一遍ちょっとわかりゃあ、市長、部長でもよろしい説明願いたいと思います。

○市長（友實武則君） はい。

○委員長（北川勝義君） 友實市長。

○市長（友實武則君） まず冒頭に、今まで前の任期の中でもこういったことに対する説明が不足してたという御指摘については申しわけないと思います。深くおわびを申し上げながら次のステップへ移っていきたいと思います。

この調査について、しっかりと我々が直営ではできない範囲になってきておりますので、専門家の手をかりまして正確な調査をして、その上でまた配置とか耐用年数等、もっと技術的な面を踏まえながら議会のほうにも説明をしながら、この説明を深めていきたいと思っておりますので、どうかよろしくお願い申し上げます。

以上です。

○委員長（北川勝義君） はい、松田委員。

○委員（松田 勲君） 要望なんですけど、財政のことを考えたらそういった話になるのかなと思いますけど、今合併して、もともと山陽町だけの町役場だったわけです。それが4町合併して職員の方も大半がここになって、どう見てももうどんどん狭くなってる。職員のほうも狭くなってるけど、もともと市民の方が通ってた通路も狭くなってるわけです。これを今見たら、耐震の壁とかが設置とか、柱が来たりとか、窓口閉鎖とかいろいろなってますけど、耐震だけ考えるんじゃなくて、もちろんさっき言われたような中に入ってると思うんですけど、やっぱり市民の方が一番、憩いの場所でもあるような、来たくなくなるような庁舎にしなくてはならないと僕は思うんです。

試験的に今、この前も真ん中の通路から出るところでコーヒーを売ってらっしゃるところを見たんですけど、通常いろんな市役所に行ったときに、結構そういったカフェみたいな人があったりとか、そういった市民の方同士が話せる場があったりとかするんですけど、赤磐の場合はないんです、そういった場所。

職員も、もう狭い中で食べてる。昼なんかはもうみんな机の上で食べてるけど、市民から見たら丸見えです。それもいかなもんかなと、僕はずっと思うんです。

だから、そういったことも考えて、耐震はもちろん一番、この流れでいうと耐震はちゃんとせにゃあいけんかもわからんけど、それと同時に市民の方が本当に来たくなくなるような、あそこへ行ってまたあの人に会えるなとかという場所も必要だと思うし、そこで働く職員も、働きがいがあるような、湧くような、そういった場所にするべきだと私は思うんです。

だから、耐震だけ考えて予算を出すんじゃなくて、そういったことも考えた上で、それだったら増築が必要なんじゃないかなとかいろいろあると思うんですけど、そういったことも考えてやられるんでしょうか。そういった上で、耐震をしてこういうことをしたらこのぐらいかかりますと、新築したらこのぐらいかかりますとかって、そういう比較ができるんでしょうか。その辺お伺いしたいんですけど。

○財務部長（直原 平君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、直原部長。

○財務部長（直原 平君） 申しわけございません。下山委員、松田委員、それから委員長の貴重な意見をいただきました。我々としましては、財源のほうを優先というか、先に考えておりました、5ページのようなスケジュールにも触れておるわけでございますけれども、今、松田委員おっしゃいましたように、この調査におきまして、先ほど私が言いました項目の庁舎の現状、それから劣化調査、それからライフサイクルコスト、いろんな見地から調査を行いまして、今おっしゃいました耐震化はもちろんでございますけど、市民の方が憩えるような場を確保できるような調査にしてまいりたいと思いますので、よろしく願いいたしたいと思ます。

○委員（松田 勲君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 松田委員。

○委員（松田 勲君） 隣の、今さっき委員長が言われようた公民館、これは公民館も入ってるんですか。これは本庁舎だけ。

○財務部長（直原 平君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、直原部長。

○財務部長（直原 平君） 現在のところ、計画では本庁舎のみ、この調査、計画等をさせていただき予定でございます。

○委員長（北川勝義君） 松田委員。

○委員（松田 勲君） 僕は思うには、公民館のほうがもっと激しいのではないかと思うんですけど。いかがですか。

○市長（友實武則君） はい、委員長。

○委員長（北川勝義君） 市長。

○市長（友實武則君） 済いません、補足をさせていただきます。

先ほどの財務部長の説明に補足でございます。

これは、この調査については本庁舎を対象に調査をしますけども、この調査について我々もまだ知識、経験が少ないということから、まず本庁舎を調査してこの考え方をしっかりとしたものにしなから、引き続いて公民館等の調査も行っていこうという考えでいるところでございます。

それから、市民の皆さんが憩う場所、これほどこの市役所へ行ってもそういった機能を備えております。そういった機能もこの市役所庁舎にも必要と考えております。そういったトータルでのスペースの使い方も検討の中に入れていくつもりでございますので、またこちらの担当常任委員会のほうにも調査の経過の中で御報告等をさせていただきながら結論を導いていきたいと思っておりますので、御理解をよろしくお願い申し上げます。

以上です。

○委員長（北川勝義君） 市長、今松田さん言よう、みんな言ようことは正論な話で、市長の言ようのも正論じゃけど。とりあえず、ここの僕の考え方は、ここが公の施設というたらおかしいんじゃないけど、行政区域というたらおかしい、学校入れて、文化ゾーンというたらおえんけど、図書館もあつたり、旧消防署も活用してもらわにやおえんし、これは一体的にやってもらわにや、これがよそへ移っていくというたら大変なことになって、もう総スカンじゃけ。僕は、吉井へ本庁舎を移しちゃうというたら、吉井へ来てくれたら困るというて僕がかえって言う。本当は来てほしいけど、ほんまの話が。それが本当の気持ちで、やっぱりここは困るということで、全体的な、医師会病院も近かつたり皆こうずっとあるんじゃない。ここんところは、ここの考え方を核にしてから、今市長、次にやるんもええけど、入るとこじゃな、下山委員が言うた1.5倍になるとかというてなつたら、当然松田委員も言うた、通路が狭うなる、市民のためにそしたら今度は憩いの場をつくっちゃるとか、場所を向こう向こうへ設ける、使えるところは使うように改造せにやおえんのんじゃないかねえかなと思うて。入るとこがねえののできんのんで、場所を違うとこにするんじゃないつたら簡単、ほな違うとこというのはどこの候補地を探すんなどいうたら、候補地の話からまたややこしい話ばあになつてもうて、全体的なまちづくりのコンパクトシティ、はやりの言葉じゃねえけど、それはうめえこといくかいかんかわからんのんで。とりあえず、先ほど市長が最初に答弁したときの答えというのは、下山さんが言うたように耐震ありきじゃのうて、耐震もありきじゃけど、どういうことをやっていけるといいうちも考えていくということの、全体のところで予算をつけるというふうに説明してただかなんだら、耐震ありきになつてもうたり、せえから次々、また次のつくりゃあよろしいような感じにとれるんで、一体的な計画で、もう何をさておいてもこのとこが、いろいろ調査、専門家というて、こういうとこはゾーンになけりゃいけんのんじゃないと。行政ゾーンというか、福祉ゾーンというか、こうなけりゃおえんのんじゃないと。文化ゾーンというんか、なけにやおえんというようにしてもらえる説明をしてもらいてえと思うんで。そういうお願いしますから。

ちょっと待ってください。

○委員（下山哲司君） よろしいですか。

○委員長（北川勝義君） はい、下山委員。

○委員（下山哲司君） 1つだけ。

僕らの今までの流れの中の認識でいけば、建てかえても耐震にしても、一旦中のものがどっかへ出て仮設にして、また戻ってくるということには、もう新築もあれも全く一緒じゃと思う。ほんだら、どこが違うんかというて大まかに言うたら、耐震する費用と新築の費用との差しかない。

○委員長（北川勝義君） そうじゃ、そうじゃ。

○委員（下山哲司君） 大まかに言えば。そういう認識でおるんじゃない。もうずっと10年間の間

で。そしたら40億円か60億円かどこの違いぐらいしかないというふうな認識なん。簡単な話なんよ。同じ人口の町の新しゅう建ったとこの、おい、どのくらいかかったらというて、電話1本で聞きゃあわかる、大体このくらいなんじゃと、そこからがスタートじゃと思う。

じゃけど、今からもう人に頼って一千何万円捨てて、それを足にしてまた考えようという。そんな錢かけんでも、大体もうわかるんじゃから、大体規模をすれば。何割の違いだけなん、半分も倍も違やへんのよ。じゃから、そういうことができてないということが10年間経過したのに情けない。それにかかわった職員はおるはずなんよ、今までやっ取る。僕らがそれ聞いとるから今そういうあれでおるんじゃから、そういう現実じゃというの、それがもう何か前のことは全く生かされんという。新しゅうすれば新しゅうする分余分に錢がかかるわけじゃから、今までしとることを引き出してきてきちっと使えばいいんじゃないん。そうすれば、もっときちっとした対応が決まってからそれに錢を投入すればいいんじゃないかと思うんじゃけど。そこへ至るまでに、ずっと今まで4年間見てきたら、もう何か調査費、何か調査費、何か調査して600万円捨てる、800万円捨てる、余りにも多過ぎるような気がするん。じゃから、僕はそういうことをもう少しシビアにやってほしいというてお願いしよんで、もう少し、行政は継続性なんじゃから、前にあったいいものは使う、要らんものは破棄する、そういう考え方でやってもらわんと、もう聞きょうてあほらしゅうなる。

せえでやめます。

○委員長（北川勝義君） 答弁よろしいか。

○委員（下山哲司君） よろしいです、きょうは。

○委員長（北川勝義君） 僕が言うんじゃねえけど、僕はくでえけど賛成派でもねんじゃけど、どねんやっていくというのは反対派でもねんじゃけど。

新しゅうここ、ほんなあ議員の皆さんも無責任なこっちゃんのうて、やっぱり言うたんじゃったら責任を持って、ここじゃのうて候補地はここで、建物はこうで、こういうことをして、こんだけの地域をするというて言うたげにゃおえん。おえん、おえん、ええ、ええ、ええと言うのは簡単なこっちゃんから、それを考えにゃあ。これはもうプロパーじゃから、あなたら職員で考えた上で、できんから設計するんじゃったらすると、こうやっていかせてもらおうと。それで意向は新築になるかもしれんけど、そりゃいろいろなことも考えてだめな場合は新築にならあや。今これを見て、誰が見てももう破損したようなこの給水管やこう見ようったら、ほんまどねんしょうもねえ、こんなこって笑われっしもうてやらにゃあおえんというような早急にここを一部分金をかけて、1億円かけてやってみても、またこっちをせにゃあおえんなって、次々次々やらにゃあおえんなるから、やっぱりここで20年間、抜本的20年か30年間でもつようなもんをやってもらうとくためには安いけど、この現状を維持していかなんたら、なかなか文化施設とか公共施設というたらおかしいことになるんじゃねえかなと思います。そこらもあるんで、市長、執行部のほうでよう相談して、次の委員会のときに出すときには、もっと綿密に

精査して説明もできるようにして、最初冒頭断りしてやっていただけると思います。

そういうことでお願いしたいと思います。

他にありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（北川勝義君） 他になかったら、僕ちょっと言うとかにやおえんのは、桜が丘西1丁目、倉庫の解体工事が450万円、これはええんじゃけど、これも執行権じゃけえ別にこだわらん。今度のときにはせめて、さっき永徳さん言われて、永徳さん今回言わんけえあれと思うたけど、場所ぐれえはどこなあとかというて地図ぐれえか、こねえな悪うなっとなんじゃというて、老朽化の、こねえなとこじゃ写真の1枚ぐれえ撮って、建物、場所ですよというて。要らんときにはぺらぺらぺらようけ出すのに、肝心なときにいっことも出さずに、ちいたあそれ、次の委員会のときには出してください。なかったら困るというんか、僕ら別に執行部がやりようることに反対する気は毛頭ねんじゃけど、やっぱり反対せにゃあおえんようになるんで、できたらそこんとこお願いして、どんなですか。

○財務部長（直原 平君） はい。

○委員長（北川勝義君） はい、直原部長。

○財務部長（直原 平君） 先ほどから、本当に次々に御指摘をいただいとるとおりでございまして、財務部のほうも1行、2行の説明で申しわけなく思っております。

次回につきましては、詳しい図面等を出させていただきますので、よろしくお願いいいたします。

○委員長（北川勝義君） それから、もう2点ついでに言うて。御当地ナンバー、これ治徳さんやろうというて、これは別にええ、御当地ナンバーして何のメリットがあるんなあ。今、費用対効果というてありゃへんど。何のメリットがあるん、ちょっと教えてくれ。赤磐市の何のメリット、桃でもブドウでも入れて走るんか。何のメリットがあるん。

○税務課長（末本勝則君） はい、委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、末本課長。

○税務課長（末本勝則君） 先ほど説明の中でもちょっとございましたが、郷土愛の醸成を期待いたしておりまして、あとオリジナルデザインを用いるということでございますんで、赤磐市にちなんだものをデザイン化いたしまして、市内外を通ることによって赤磐市のPRにつながればというふうな期待をいたしております。

○委員長（北川勝義君） 財政のPR。

○税務課長（末本勝則君） いえ、赤磐市の市内外へのPR。市内はあれですけど。

○委員長（北川勝義君） 末本課長、ほんなら今僕がカブを持っとらな。かえてくれというて持っくらあな。ただか。

○税務課長（末本勝則君） はい、その予定でしております。

○委員長（北川勝義君） そんなこと、全員が来たら赤字になって、プレートをつくらにゃ足らんようになったらどうすん。サービスしてよなったりする。時々倉敷の見て、あれについて行きようるけど、見ても何の価値もねえと思うて、車の僕後ろおっても、11日の日もそう思うたんじゃけど。

○税務課長（末本勝則君） 現在のところ……。

○委員長（北川勝義君） 同僚議員が言うこっちゃけ、反対はしちやりょうらんけど。

○委員（松田 勲君） そういう人もおるし。

○委員長（北川勝義君） もっとプラスになるようなことでなかったら、費用対効果のことを言ようるから。これをしたから税金が100%完納できるんじやったらしてくれりゃあええけど、と思うたんじゃ。

それから、管財課のほうの専用封筒が43万5,000円、これはつくる金が43万5,000円というのはわかるんじゃけど、こういうことを言うたらおかしいけど、今封筒へ入れとるでしょう、何とか司法書士とか、こう入れてしとりますが、ホンダとかというて書いとりましたが、あれはもう、あれとは別かな。

○管財課長（小坂憲広君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、課長。

○管財課長（小坂憲広君） 今回補正で上げさせていただくのは、この通常の青い広告入りじゃないものでございます。

○委員長（北川勝義君） その青いんやこう意味ありゃへんがな。

○管財課長（小坂憲広君） 広告入り封筒につきましては今年度もお願いのほうをしております。枚数のほうが、角2、この大きいほうが1万枚、それからこっちのほうが、長いほうが4万枚、広告つき封筒、今年度もつくっております。

以上です。

○委員長（北川勝義君） いや、43万5,000円というのは、その白いのつくるだけじゃな。それ味気なからう。あの種まく旅人の名刺つくったんじゃけど、ああいうなんでも何かええんが入るんじゃけど、何にも味がねえ、物を書くのは、メモには使えらあな、裏が。

○委員（松田 勲君） それこそイメージ入れりゃあええ。

○委員長（北川勝義君） もうちょっとイメージ入れてくれたほうがええんじゃねん。今、御当地ナンバー入れよんじやったら御当地ナンバーのイメージでもええし、今の清水白桃や種まくの、何でもええ、そういうなん入れたほうがええんじゃねん。

○委員（松田 勲君） 印刷代変わらん。

○委員長（北川勝義君） 印刷のプロが言よんじや、変わりゃへん言よんじやけえ。

直原部長。

○財務部長（直原 平君） 封筒につきましては、先ほどピンク色の分は郵宣協会というところ

ろから5万枚、各年度で広告の入ったものを入れて……。

○委員長（北川勝義君） それ、要らんがな。そんなことを聞きよんじゃねえ。直原部長、そんなことを聞きようらんじゃねえ。

○財務部長（直原 平君） ですから、今回……。

○委員長（北川勝義君） そんなことを聞きようらんのんじゃっちゃ。じゃあから、今回つくることは、ええ悪い言ようりゃへん。印刷代も変わらんのじゃけん、そこへ赤磐市のちょっと何かでも入れりゃええという話をしょんじゃが。

○財務部長（直原 平君） 濟いません、前置きが長くて申しわけ……。

○委員長（北川勝義君） ちょっと、議長黙っとけ、おめえ、今話しょんじゃけ。

○財務部長（直原 平君） 内容を十分検討……。

○委員長（北川勝義君） ちょっと黙っとけ、今言よんじゃけん、意見を言よんじゃから。

それと、教育委員会のは教育委員会で作くつとるとか、ばらばらのことじゃのうて、そりゃつくり方もえんじゃけど、そういうときに節約したり、一緒につくって何枚も入れてもええし、ちょっとやり方考えにゃおえんのじゃねん。ただ、愛想のねえ、そねえな、ほんま愛想がねえと思うんじゃ。片や映画祭りをせにゃあおえんのんじゃとかというて、ああじゃこうじゃ、これもせにゃあおえん、ナンバープレートじゃ醸成をすんじゃというて、赤磐市のというて、うちのこっちの封筒は何にもせん。じゃったら、昔の悪い紙で張つときゃええがな、一番安いのでしときゃ。今そう思うんじゃけど、それを聞こうとしたんじゃ。何か入れるとかというて、もうちょっとええげにしたほうが、例えば税金でも払えだけで、税金督促状を送ったときでも、そこへ書いとんのがもうちょっと、何かあかいわモモちゃんでもあったり、にこつとちいたあええとか、何かでもすりゃあええんじゃねえかということを書いたかったんです。それがあやあ答えてほしいと言うたんです。

○財務部長（直原 平君） はい、委員長。

○委員長（北川勝義君） 直原部長。

○財務部長（直原 平君） 今回上げさせていただいております43万5,000円につきましては、先ほどの委員の皆様様の御意見を参考、また内容等しっかり検討いたしまして、充実したものに代えていこうと思っておりますので、よろしくお願いたします。

○委員長（北川勝義君） いや、直原部長な、おめえすぐ何か言うたら意見を聞いてしましよいうというて、そう簡単に言うてしたためしがありゃへんのんじゃ。そうじゃのうて、検討されて、今回はこれでやりてえのはやってもえんじゃけど、検討してくれりゃあ、じゃけえ映画でも一言入れるとか何かでまた全然違うと思うんよ。それを言いたかっただけのことを言よんじゃ。

別に、御当地ナンバープレートもおえんというてけちつけよんじゃねえで。僕は、ようけえの者がかえてくれというて来たら困らんかなと思うて、お金が足らんようになるんじゃねえか

など思うて、ちょっと要らんことを思うただけで。

直原部長、できるだけ要望に応えるように検討してください。

○財務部長（直原 平君） はい。

○委員長（北川勝義君） 他にありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（北川勝義君） それでは、財務部を終わりたいと思います。

続きまして、教育委員会のほうを説明願います。

○教育総務課長（安本典生君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、安本課長。

○教育総務課長（安本典生君） それでは、教育委員会の資料をお願いいたします。

教育委員会からは、6月議会への上程議案ほかでございます。

初めに、教育委員の選任についてでございます。

資料1ページ、資料2ページのほうに候補者の略歴と委員名簿をお示しさせていただいております。

このたび、平成29年4月25日に教育委員を辞職された内田教育長の後任候補者につきまして、6月議会に任命の同意をお願いするものでございます。

候補者といたしましては、赤磐市桜が丘西5丁目9番4号、大崎陽二さん、63歳でございます。任期のほうは議会の同意をいただき市長が任命をした日から、内田教育長が教育委員時の残任期間となりますので、平成30年5月19日まででございます。大崎さんは昭和51年4月より小学校教諭として平成26年3月、軽部小学校校長を退職するまで、山陽西小学校などで学校教育に38年間携わられました。また、資料の職歴のほうへお示しをしておりますように、体育指導員、赤磐市スポーツ推進員として、また平成26年4月より赤磐市教育委員会において学校教育相談員、桜が丘小学校発達障害支援アドバイザー、青少年育成員など歴任していただいております。大崎さんは教育全般に見識豊かな方でありまして、経歴や人柄に申し分なく教育委員として適任でありますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

続きまして、3ページをお願いいたします。

平成29年度赤磐市一般会計補正予算（第2号）についてでございます。

6月議会に上程予定の補正予算につきまして御説明申し上げます。

教育総務課の関係でございます。

教育総務課からは、3つの事業について補正をお願いするものでございます。

まず1つ目は、吉井中学校プール整備事業についてでございます。

4月に内示を受けた、国の学校施設環境改善交付金とあわせまして、過疎対策事業債を財源として整備するための予算をお願いするものでございます。

平成28年4月に決定した赤磐市における教育用プールの管理運営の基本的な考え方に基づ

き、学校教育活動に支障がないよう、水泳授業の実施の確保並びに教育水準の公平性の確保と教育施設の均衡を図るため、市内小中学校のプール整備計画を進め、自校のプールで伸び伸びと水泳ができる環境を整備するものでございます。6月補正では、事業2期分としまして、プールの新築工事設計監理委託料と新築工事費を計上させていただくものでございます。

2つ目は、学校施設空調設備整備事業についてでございます。

国の学校施設環境改善交付金とあわせまして、合併特例債を財源として整備するための補正予算をお願いするものでございます。

赤磐市教育委員会では、赤磐市小中学校空調設備設置計画を策定し、全児童が快適な環境で学習できるよう、平成29年度から31年度までの3年間で整備を計画的に進めるものです。平成29年度は設計、平成30年、31年度には設置の計画としております。6月補正では、市内小中学校の空調設備設計委託料を計上させていただくものでございます。

3つ目は、就学援助費についてでございます。

赤磐市では、国の基準に合わせて就学援助費の支払いをしております。平成29年度から国の基準のうち、新入学用品の基準単価が増額されたことに伴いまして、市といたしましても国の基準単価に合わせるものでございます。6月補正では、就学援助費の小中学校新入学用品費増額分を計上させていただくものでございます。

それでは、3ページから御説明をさせていただきます。

まず、歳入でございますが、1、学校施設環境改善交付金1,685万円につきましては、吉井中学校プール整備の2期新築工事に対する学校施設環境改善交付金の内示によります計上でございます。

2、過疎対策事業債1億4,310万円につきましては、吉井中学校プール整備事業の2期分新築工事の地方分担分の財源として過疎対策事業債を計上するものでございます。

3、合併特例事業債1,850万円につきましては、空調設備整備事業の財源といたしまして合併特例事業債を計上するものでございます。

歳出でございますが、1、一般管理費2,000万円は、吉井中学校プール新築工事設計監理委託料を計上するものでございます。

2、中学校費一般管理事業1億4,000万円は、吉井中学校プール新築工事請負費を計上させていただくものでございます。

3、学校施設空調設備整備事業1,950万4,000円は、市内小中学校空調設備整備設計委託料を計上させていただくものでございます。

4ページをごらんください。

4、小学校費、教育振興事業112万8,000円は、就学援助費の新入学用品費増額分を計上させていただくものでございます。

5、中学校費、教育振興事業138万4,000円は、就学援助費の新入学用品費増額分を計上させ

ていただくものでございます。

○学校教育課長（松井啓子君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、課長。

○学校教育課長（松井啓子君） 続いて、学校教育課の説明に移らせていただきます。

学校教育課のほうからは、歳入が3点、歳出のほうが2点ということで補正予算のほうを上げさせていただいております。

まず、歳入につきましてですが、生徒指導総合実践事業209万7,000円につきましては、県の委託事業、小学校における不登校対策実践研究事業の拡大に伴う委託金の増額でございます。

2つ目の教育研究費、長期宿泊体験活動事業委託金14万4,000円につきましては、県委託事業の健全育成のための体験活動の推進事業の拡大に伴う委託金の増額でございます。

3番目といたしましては、ふるさと応援基金の繰入金1,080万7,000円につきましては、これはふるさと応援基金の平成28年度の積立分の確定により、ふるさと応援基金の繰入金の補正振り分けによる財源の更正をするもので、充当先といたしましては、そこにお示ししておりますように、教育費、小学校費の一般管理事業に充てるものと考えております。

続きまして、歳出ですが、先ほど御説明をいたしました生徒指導総合実践事業135万9,000円につきましては、

こちらについては、登校支援員が増員をいたしました。平成28年度につきましては6名の登校支援員を配置しておりましたが、その報酬及び旅費が増加になっております。2名の増員でございます。また、登校支援員1人当たりの時間数が600時間でしたが、680時間ということで、増加に伴う報酬の増額でございます。

教育研究費、長期宿泊体験活動の事業につきましては、申しわけありません、14万4,000円につきましては、これまで3泊4日の実施校が対象となっておりましたが、このたび県のほうから2泊3日も対象校ということで認められましたので、2校分の増額になります。

以上です。

○社会教育課長兼スポーツ振興課長（土井道夫君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、課長。

○社会教育課長兼スポーツ振興課長（土井道夫君） それでは、社会教育課とスポーツ振興課をあわせて説明させていただきます。

5ページをごらんください。

まず、歳入でございますけれど、ふるさと応援基金繰入金として97万8,000円でございます。これにつきましては、平成28年度積立分の確定により、ふるさと応援基金繰入金の補正替分による財源更正といたしまして、充当先が資料館運営事業のほうでございます。

歳出につきましては、資料館運営事業で263万9,000円でございます。これにつきましては山陽郷土資料館の2階の展示室の防犯シャッターが老朽化により故障しております。それに伴

う修繕費等を計上させていただいております。

6 ページをお開きください。

実施設計委託料が19万4,000円、施設維持管理工事費として244万5,000円、計263万9,000円の補正をさせていただくこととしております。

続きまして、スポーツ振興課におきましては、歳入面でございまして、これにつきまして、ふるさと応援基金の繰入金といたしまして47万6,000円、これにつきましては平成28年度積立分の確定によりまして、ふるさと応援基金繰入金補正振替分による財源更正としてするものでございまして、充当先といたしましては生涯スポーツ推進費のほうに充当するものでございます。

以上です。

○中央公民館長（高橋浩一君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、館長。

○中央公民館長（高橋浩一君） 公民館からは歳出が1件でございます。

資料は先ほどと同じ6 ページをお願いいたします。

公民館は維持管理事業について補正をお願いするもので、公民館の安全性と快適性を確保するため、老朽化した施設の修繕に伴う修繕料、委託料、工事請負費を増額するものです。

まず、需用費、修繕料として、赤坂公民館の非常・業務放送設備の取替工事に65万4,000円。これは32年経過しており、使用時にノイズが入るため機種の変換を行うものでございます。

それから、熊山公民館の2階、講座室改裝修繕工事に44万1,000円を計上するものでございます。これにつきましては、カーペットの張りかえ、それからパーティションのレールのふぐあいがございますので、その辺を修繕するものでございます。

次に、委託料として、西山公民館の屋根防水工事に伴う設計監理委託料85万円を計上するものでございます。同じく工事請負費として、西山公民館の屋根防水工事に534万6,000円を計上するものでございます。これにつきましては、大集会室とロビーとの間付近に雨漏りがあるため、防水工事を行うものでございます。

以上でございます。

○教育総務課長（安本典生君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、安本課長。

○教育総務課長（安本典生君） 続きまして、資料7 ページ、8 ページをお願いいたします。

赤磐市立小中学校プール整備計画（案）についてでございます。

教育委員会では、平成28年4月に決定した赤磐市における教育用プールの管理運営の基本的な考え方にに基づき、学校教育活動の支障のないよう、水泳授業実施の確保並びに教育水準の公平性の確保と教育施設の均衡を図るため、老朽した市内小中学校プール整備の計画的な維持、

修繕を進め、自校のプールで伸び伸びと水泳ができる環境を計画的に整備するものでございます。

赤磐市合併後、小中学校プールにつきましては、吉井中学校を除き、学校からの修繕要望に基づき対応してまいりましたが、赤磐市における教育用プールの管理運営の基本的な考え方に基づき、吉井中学校のプール整備とあわせて、現在把握している修繕箇所を優先しながら、設置年度を考慮し、計画的な水槽の塗装、ろ過機の交換、ろ材の入れかえ、ポンプや周辺機器、水道の取りかえ、プールサイドの補修など、修繕計画の整備を図るものでございます。平成29年度は、山陽小学校、石相小学校、軽部小学校、笹岡小学校、桜が丘中学校、赤坂中学校など、6校でろ過機やろ材の入れかえ、ポンプ、配管などの改修工事を進めております。

10ページをごらんください。

吉井中学校のプール整備事業でございますが、吉井中学校も赤磐市における教育用プールの管理運営の基本的な考え方に基づき、平成29年度から他の小中学校のプール改修とあわせ、早期に現在の教育活動の支障を解消し、教育機会の均等のため、6月議会へ補正予算として計上したいと考えております。

吉井中学校プールの整備の必要につきましては、現在教育用プールの管理運営において、学校外の施設利用では従来の方針による水泳指導等、学校教育活動に支障がないという前提が崩れており、また他の小中学校も老朽化により水泳授業ができなくなるというおそれがあるなど、課題を抱えております。このような状況を踏まえまして、今後全ての小中学校において、学校教育活動に支障がなく水泳授業の実施が確保できるよう、また市内小中学校の教育水準の公平性の確保や教育施設の均衡のため、教育委員会議で従来の方針を平成28年4月に変更しました。自校のプールでのびのびと水泳が出来る環境を整備することと決定いたしました。

吉井中学校プール整備につきましては、平成29年度新築工事を実施するものでございます。規模につきましては、プール水張り面積として325平米、5コース程度を想定しております。

整備スケジュールにつきましては、9ページをごらんください。

平成29年度の新築工事スケジュールになります。

6月補正をお願い後、設計を11月までに、その後、建築確認申請等の手続を行いまして、9月ごろ工事入札、完了を平成30年10月末と予定しております。

10ページをごらんください。

3の事業費ですが、新築工事費が1億4,000万円、設計監理委託料が2,000万円を予定しております。財源といたしましては、学校施設環境改善交付金1,685万円、これにつきましては4月に内示をいただいております。過疎対策事業債1億4,610万円、それから。過疎対策事業債につきましては1億4,310万円でございます。失礼いたしました。

過疎債償還に対する交付税算入を考慮いたしまして、市の負担額は4,300万円と見込んでおります。また、維持管理費等、水道、薬品、プールろ過機保守点検費用など、年間40万円から

50万円程度を予定しております。

平成28年4月20日に決定いたしました赤磐市における教育用プールの管理運営の基本的な考え方を11ページ、12ページに添付しております。次の6月議会に吉井中学校プール整備の予算として、新築プールの設計監理、新築工事費を計上したいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

次に、赤磐市立小中学校空調設備設置計画（案）についてでございます。

資料13ページ、14ページをごらんください。

近年の夏季の気温上昇に対処し、児童・生徒の健康管理や学習効果の向上のため、快適な就学環境提供のため、普通教室や音楽教室等の特別教室へ空調設備の設置について3年間を目標に計画的に整備を進めていく方針をまとめたものでございます。

18ページをごらんください。

導入スケジュールは、平成29年度から31年度までの3年間とし、29年度は設計、30年度、31年度に小中学校17校の普通教室144部屋、小中学校音楽室22部屋、計166部屋に空調設備を設置していきます。設計を含めた全体設置費用は2億8,745万2,000円を見込んでおります。29年度の設計委託料が1,950万4,000円、30年度設置費用が1億7,317万8,000円、31年度が9,477万円と予定しております。設計を含めた設置概算費用が2億8,745万2,000円で、財源内訳といたしまして、学校施設環境改善交付金9,311万3,000円、合併特例債1億8,450万円、市費、一般会計でございますが983万9,000円で、交付税算入を考慮した償還に伴います市の負担額は5,535万円と見込んでおります。

以上が計画案でございます。合併特例債を活用して、次の6月議会に市内小中学校の空調設備整備の予算として設計委託料を計上したいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

○学校教育課長（松井啓子君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、課長。

○学校教育課長（松井啓子君） 学校教育課のほうからは、一時預かり保育の実施についてということで、事業の進捗状況について御報告をいたします。

資料のほうは20ページになります。

平成27年度から赤磐市の幼稚園の一時預かり保育を試行で行ってまいりましたが、目的としては保護者の子育て支援の一環ということで行ってまいりましたが、今年度は全園で一時預かり保育の実施を行うことにしております。利用できる園児、預かり理由等については、大きく昨年度から変更したところはありませんが、今年度から全園で実施ということで、4月にもう既に預かり保育のほうを実施しておるところです。平成27年、28年につきましては、合計で158名の預かり保育がありました。今年度もその方向で進めてまいりたいと考えております。

以上です。

○社会教育課長兼スポーツ振興課長（土井道夫君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） はい。

○社会教育課長兼スポーツ振興課長（土井道夫君） それでは、社会教育課のほうから日本遺産について、資料はございませんけれど口頭のみのお報告となりますが報告させていただきます。

ことし1月の総務文教委員会の際に、日本遺産の申請について委員の皆様にお報告させていただいたところでございます。岡山市を代表自治体として、赤磐市、倉敷市、総社市の4市で平成29年2月初旬に申請いたしました日本遺産について、平成29年4月28日にその結果発表があり報道されたところでございます。結果は、残念ながら認定されませんでした。

このたびは全国で79件の申請があり、そのうち17件が認定されました。岡山県では備前市を代表自治体とする焼き物と、あと倉敷市が申請しました繊維産業について、2件が認定されました。

文化庁は2020年の東京オリンピックをめどに100件の日本遺産認定を行うこととしております。本市にあります歴史遺産は、全国的に貴重でございます。引き続き、関係市と協力し、来年度の認定を目指して活動していくことといたします。

以上、口頭でございますけれども、報告させていただきました。

続きまして、スポーツ振興課からチャレンジデー2017について御報告させていただきます。

資料の21ページをお開きください。

チャレンジデー2017ということで、ことしで赤磐市は8回目の参加となります。対戦相手につきましては沖縄県南城市で、全国一斉に5月最終の水曜日、31日にチャレンジデーが実施されます。市民の皆様には、既に広報5月号で参加の呼びかけをしているところでございます。議員の方々の積極的な御参加と市民への参加周知への御協力をお願いいたします。

以上でございます。よろしくお願いいたします。

○中央図書館長（三宅康栄君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、三宅館長。

○中央図書館長（三宅康栄君） それでは、図書館のほうからサマータイムの実施について御説明をさせていただきます。

資料は、教育委員会最終ページ、22ページになります。

図書館では、平成26年度図書館協議会から出された意見書に従いまして、指定管理者制度の導入の検討の一環といたしまして、暮らしに役立つ図書館を目指し、従来の運営に工夫と改善を加えながら進めており、3年目となる本年度平成29年はその見直しの最終年度になり、本年度中には方向性を示していくという流れで検討を進めております。

この運営の改善の取り組みといたしまして、開館時間の延長を望む声が多かったことから、

図書館では夏季限定で開館時間を拡大するサマータイムを試行として実施しております。サマータイムにつきましては、平成27年度は7、8、9月の期間、28年度は6、7、8月の期間と時期をずらして試行いたしました。

このサマータイムですが、利用者のニーズに応えるべく、平成30年度以降も続けていく必要があるのかと考えております。時期としましては、暑さが厳しい7月、8月は実施の必要性があると考えます。しかし、6月と9月につきましては、試行の結果、特に9月の利用については日没が早くなることもあり、必要性はないのではないかと感じました。一方、温暖化が進む中、6月に入ると早朝から気温が上がってまいります。昨年度も6月に実施し必要性を感じました。御利用の方からも大変お喜びの声をいただいております。本年度もう一度6月に実施をいたしまして、その必要性について最終的に検証し、その結果を30年度以降の実施に反映させていただきたいと考えております。

なお、サマータイムの実施内容は昨年度と同じです。実施館は赤磐市立図書館全館です。内容は開館時間の拡大といたしまして、午前10時開館を1時間前倒しで9時開館、これは全館です。閉館時間につきましては、地区館は現行同様、午後6時。中央館は1時間拡大しまして7時といたします。木曜日は夜8時まで通常開館しておりますので、それは現状のままとさせていただきます。なお、休館日の削減といたしまして、現行は休館させていただいております毎月最終金曜日の館内整理日を開館いたします。これにより、サマータイム期間中の休館日は毎週月曜日のみとなります。

以上、図書館からサマータイムの実施について御説明させていただきました。

○委員長（北川勝義君） 執行部のほうから説明が終わりました。

委員の皆さん、何か質問ありますか。

○委員（大口浩志君） よろしい。

○委員長（北川勝義君） はい、大口委員。

○委員（大口浩志君） 20ページ、一時預かり保育の実施についてなんですけど、ここの利用できる園児と時間について拡大はできないんでしょうか。というのが、赤磐市はたしか、「子育てするならあかいわ市」というようなキャッチフレーズもあると思いますが、耳にした範囲でいえば、例えば都会から越してこられると車の免許証も持っておられないと。現実、ここへおると車は要ると。免許証をとりに行くにも、御存じのとおり保育園も急に預かってくれというても預かってくれません。そこらで拡大解釈になるかもわかりませんが、時間と日数を、免許証等でしたら一月もあればとれるでしょうし、別に幼稚園じゃなくてもいいんですけど、保育園のほうと連携をさせていただいて、例えばそういったような事象にも対応ができるように御検討をいただけないでしょうか。現実的には、自分が悪いんですけどっていうようなことをおっしゃっておられましたけど、免許証がうっかりして失効しておりましたというような方もお聞きして、その方は御主人が結局一月休んだと、お仕事を。出ていく金もある、入ってくる金はの

うなる、こういうことになるとなかなか現実的に、近所におじいちゃん、おばあちゃんとかがおられればいいんですけど、そういう方ばかりでもないので、せっかくこういう施策があるんであれば子育て支援課等とも検討していただいて、拡大をしていただけたらありがたいです。

以上です。

○委員長（北川勝義君） 大口委員、拡大じゃのうて違う表現のほうがようねえ。

○委員（大口浩志君） 拡大っていうのが、例えば時間が保育時間終了後から5時までなので、要するに園児限定じゃないですか。急に行かなあかんので、拡大っていう表現で御検討いただけたらと。

○委員長（北川勝義君） 今言うた拡大がそういう意味の、いろいろ拡大じゃねんで、今、大口委員言われたように、そのことを考えて、言葉遣い、議事録のことをお願いします。

○委員（大口浩志君） 申しわけありません。

○学校教育課長（松井啓子君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、課長。

○学校教育課長（松井啓子君） 御意見ありがとうございます。

具体的に、試行の中でそういったお声をお聞きができていない状況もありまして、そのようなところはまだ十分に検討できておりませんが、今後、いただいた御意見をもとにしながら、今年度1年間の全園実施をもとにしながらまた検討を進めてまいりたいと考えます。

○委員長（北川勝義君） 大口さん、よろしいか。

他にありませんか。

○市長（友實武則君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、市長。

○市長（友實武則君） 先ほどの大口委員の御質問ですけども、先ほどの学校教育課長の説明に少し補足をさせてください。

担当の常任委員会が異なるんですけども、子育て支援課のほうで、今4月1日から始めた事業で、子供一時預かり事業という事業を展開しております。1歳児から小学校3年生までだったと思うんですけども、対象の子を時間単位でお預かりする事業が今赤磐市で始まっております。先ほどの御案内のあった事例ではこの事業が適用できると思いますので、こういったことも御利用いただきながら子育てを支援していく政策をとっておりますので、御周知のほうをよろしく願いいたします。

以上です。

○委員長（北川勝義君） 他にありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（北川勝義君） なければ、これで教育委員会のほうを終わりたいと思います。

続きまして、消防本部お願いしたいと思います。

○消防本部消防総務課長（井元官史君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、井元課長。

○消防本部消防総務課長（井元官史君） それでは、消防本部の資料のほうをごらんいただきたいと思います。

平成29年6月定例議会議案、上程議案としまして3案件、それとその他の案件としまして1案件、御説明させていただきます。

まず、1ページのほうをお開きください。

まず、議案の1ですけれども、赤磐市消防団条例の一部を改正する条例についてですけれども、消防団の組織の一部見直しを図ったものに対しまして、それに伴い同条例第12条に係る別表第1の改正を行うものです。

改正理由の詳細としましては、一番最後の表、消防団の組織表になりますけれども、A3の大きなものでちょっと見づらいですけれども、2枚対比をして見ていただければと思います。

一番最後は旧の組織図で、その前が今度変わる組織図になります。こちらのほうで各方面隊に所属しておりました指導部が団本部に配置がえされまして、それに伴い機動部及び指導部並びに女性部を統括するために、改めて本部長という役職を追加するものでございます。

それと、機動部の機動班長を補佐するために置いておりました機動副班長の役職が存在しておりました。これにつきましては、出動体制及び組織運営が確立されたため、副班長の役職を廃止するものでございます。主な改正内容としまして、団条例、別表中の名前の部分です、本部長の役職を追加したもので、報酬額が9万5,000円。組織配置がえによります方面隊指導部長という名称を指導部長に改めます。それと、最後に機動副班長、先ほど御説明しましたけれども、役職を廃止することから機動副班長の名称を廃止するものでございます。

続きまして、2番目の平成29年度一般会計補正予算（第2号）についての御説明をさせていただきます。

9款消防費、1項消防費、1目常備消防費の19万円の内容でございます。これに関しまして、平成28年度に急遽退職者が2名発生した関係で、消防学校へ入校するための経費を計上するものでございます。これの内訳が救急科2名の9万4,900円の2名分の19万円となります。

続いて、9款消防費、1項消防費、3目消防施設費としまして971万7,000円の計上でございます。これにつきましては、平成29年度の当初予算におきまして骨格予算であったため、今回6月の補正として各地区の消防施設整備費を計上させていただくものです。事業内容につきましてはごらんのとおりで、消防自動車更新が2地区、小型ポンプ更新が1地区、消防機庫新設が1地区、ホース乾燥塔の新設が1地区となります。

続きまして、2ページ目のほうをお開きください。

2 ページ目で(3)で、救助工作車の更新事業について御説明させていただきます。

本年度、29年度の更新予定となっております救助工作車について、購入に向けての予定となります。

まず、①ですけれども、平成29年4月20日において入札を行った結果、入札価格は1億466万4,990円となっております。落札相手は岡山市北区大供1丁目6番の株式会社岡山森田ポンプが落札しております。同年の5月1日に仮契約が締結できております。今回の6月議会に上程させていただいて議決をいただいた後本契約、30年1月に納車予定、同月にそれぞれ運行開始予定とさせていただきます。

続きまして、その他としまして、第64回岡山県消防操法訓練大会のお知らせです。

それぞれ各議員の皆様の御自宅のほうに担当のほうが御案内のほうをさせていただいておりますけれども、今週の5月21日日曜日の9時から岡山県消防学校におきまして、第64回岡山県消防操法訓練大会が実施されます。出場チームにありましては、吉井方面隊の第3分団、佐伯北地区の分団から小型ポンプ操法の部に出場予定となっております。出場順位にありましては、25チーム中の24番目という順番になります。訓練時間にありましては、14時30分を予定させていただいております。なお、壮行式を13時30分、赤磐市のテント前にて実施予定とさせていただきますので、激励のほうをよろしく願いたいと思います。

簡単ではございますが、消防総務課よりは以上とさせていただきます。

○委員長（北川勝義君） 消防本部のほうから説明が終わりました。

委員の皆さん、何か質問ありますか。

ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（北川勝義君） なければ、消防本部のことにつきまして、これで終わりたいと思います。

皆さんにお諮りしますが、前も下山さんが委員長のときかな、消防車やったのかな、救急車やったのかな、見に行こうかというて流れたのは。

○委員（下山哲司君） そりゃあ。

○委員長（北川勝義君） 消防車やったかな。

○委員（松田 勲君） 消防車。

○委員長（北川勝義君） 消防車じゃな。

○委員（下山哲司君） いや、特殊車両。

○委員長（北川勝義君） 特殊消防車やったな。

消防車で流れたことがありまして、これも皆さんの御意見でまた、今じゃなくていいんですけど、もし森田ポンプというたら近くじゃけど、救助工作車を見るようなことがあったら、また見に行かせてもらうとかしてもええと思います。できたら消防のほうで、消防長、写真とか

という簡単な同等のようなんですがありますが、設備で。そういうなんがあったら、また出してもろうたら。

○消防本部消防長（矢部敬史君） はい、こんなのを。

○委員長（北川勝義君） はい、委員会までに。それでまた皆さんのほうで視察せにゃあいけんということになりましたら、またお諮りしますんで、よろしく願いいたします。

それでは、1の事業の進捗状況については終わりたいと思います。

続きまして、2のその他。

その他について、執行部または委員さんで何かありましたら。

○税務課長（末本勝則君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、末本課長。

○税務課長（末本勝則君） 先月開催の第2回議会臨時会において、委員長から御質問のございました軽自動車税におけるグリーン化特例及び重課に係る影響額についてお答えいたします。

平成28年度決算見込み額で、グリーン化特例に係る課税額では786台……。

○委員長（北川勝義君） ちょ、ちょ待つて。ちょっと書く。

○税務課長（末本勝則君） グリーン化特例に係る軽課の部分でございますけど、グリーン化特例に係る課税額では786台、318万6,700円の減収、それから新規検査から13年を経過いたしました重課に係る課税額では4,430台、税額は1,654万600円の増収となっております。

以上です。

○委員長（北川勝義君） 減収はわかるんじゃないけど、13年を経過した分のもとのを入れてかな、抜きでかな。

○税務課長（末本勝則君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、課長。

○税務課長（末本勝則君） いや、ふえた分だけです。

○委員長（北川勝義君） ほんなら増収分だけ。

○税務課長（末本勝則君） そうです、はい。

○委員長（北川勝義君） はい、わかりました。

他にありませんか。

○管財課長（小坂憲広君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、小坂課長。

○管財課長（小坂憲広君） ちょっと前に戻るんですが、財務部資料の最後の7ページをお願いしたいと思います。

電気自動車急速充電器の利用状況を載せさせていただいております。

桜が丘いきいき交流センターとライフプラザ吉井になります。こちらのほう、2015年度と

2016年度の比較を載せております。右側の2016年度になりますが、ちょっと字が大きくて太いところにつきましては、前年度と比べて数字がふえてることとなっております。桜が丘いきいき交流センター、1月、2月が計器故障のため計測のほうができおりませんが、それを除きましても充電量のほうは約8万ワットアワーふえております。ライフプラザ吉井のほうにつきましても、数字のほうがふえております。

以上、御報告でございます。

○委員長（北川勝義君） 他にありませんか、執行部のほうは。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（北川勝義君） 委員の皆さん、何かありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（北川勝義君） なければ、その他でもないようなので、これで以上で終わりたいと思います。

第4回の総務文教常任委員会を閉会いたします。

閉会に当たり、内田教育長のほうから御挨拶いただきたいと思います。

○教育長（内田恵子君） きょうは委員の皆様には、大変慎重審議、いろいろなお考えに触れることができ、私個人では大変有意義な会となりました。委員一人一人の皆様が本当に赤磐市の発展のためにいろいろな方面からお考えいただき、そして貴重な意見をいただき、それをもとに私たちもこれから真摯に受けとめ、皆様と一緒に赤磐市のために頑張っていきたいなと改めて思いました。

きょうは本当にいろいろな多くの御意見、あるいはたくさんの御検討を感謝いたします。ありがとうございました。

○委員長（北川勝義君） 御苦労さまでした。これで終わります。

午後0時56分 閉会